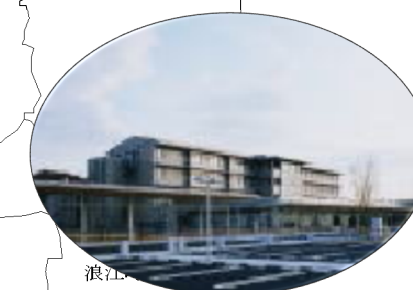


資料 2

大野病院



宮下病院



南会津病院



矢吹病院



～ 目次 ～

第1 改革プランの基本的な考え方

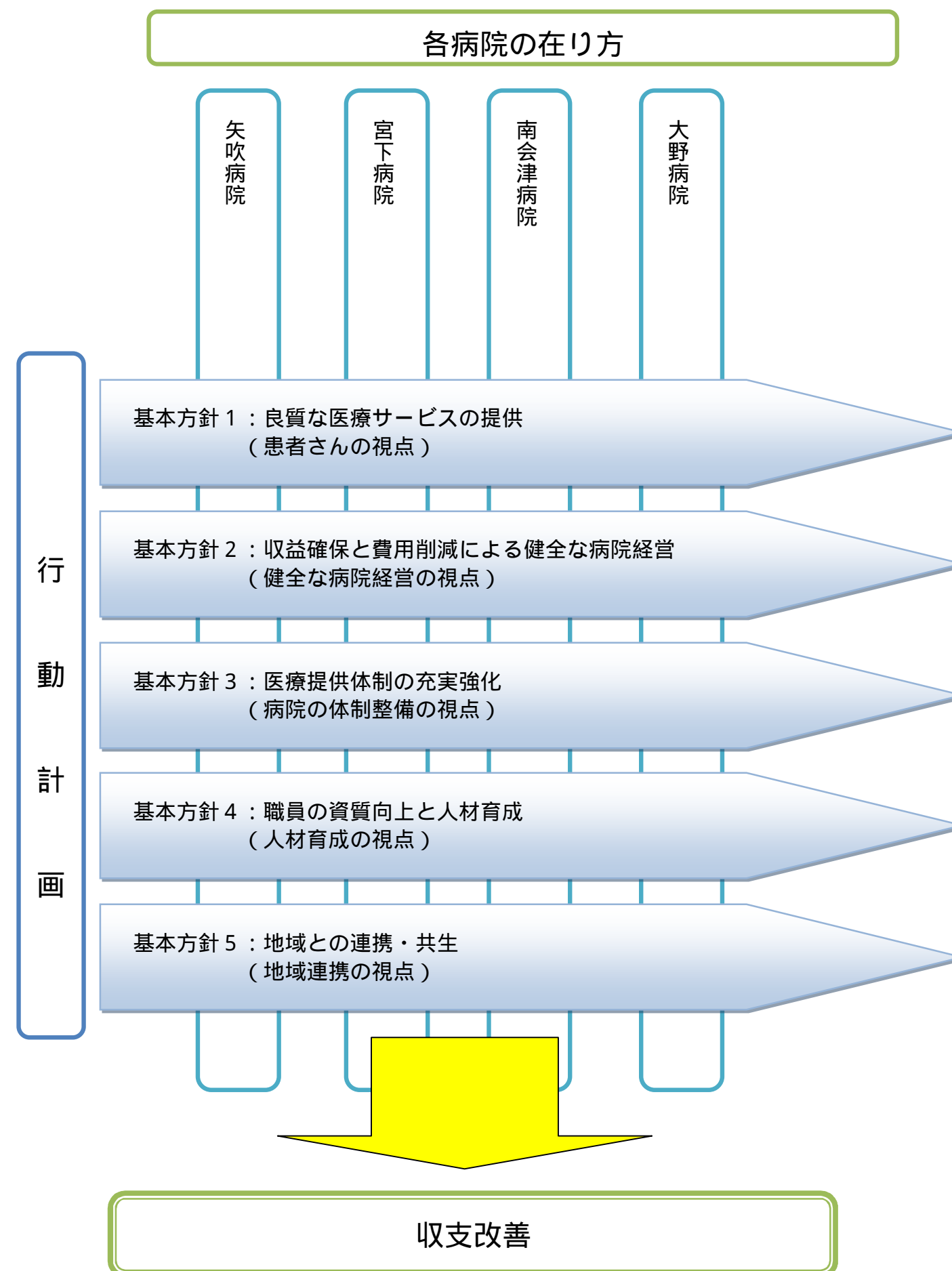
- 1 県立病院概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 1
- 2 改革プランの概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 2

第2 評価方法

- 1 自己評価方法について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3
- 2 自己評価基準について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 3

第3 自己評価

- 1 県立病院の在り方
 - (1) 矢吹病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
 - (2) 宮下病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
 - (3) 南会津病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 8
 - (4) 大野病院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 10
- 2 行動計画
 - (1) 基本方針1：良質な医療サービスの提供・・・・ P 11
 - (2) 基本方針2：収益確保と費用削減による健全な病院経営・・・・ P 16
 - (3) 基本方針3：医療提供体制の充実強化・・・・・・ P 24
 - (4) 基本方針4：職員の資質向上と人材育成・・・・・・ P 28
 - (5) 基本方針5：地域との連携共生・・・・・・・・・・ P 33
- 3 収支計画
 - (1) 平成25年度県立病院事業会計決算の概要・・・・ P 38
 - (2) 県立病院事業の収支計画について・・・・・・・・ P 39
 - (3) 各病院の収支計画について・・・・・・・・・・・・ P 40



県立病院概要

福島県立病院は、昭和 24 年に日本医療団から譲り受けた 7 病院 17 診療所を主体として発足し、その後医療行政の一環として、地域における病院の設置、他の公共団体に対する移管等を行い、現在は 4 病院となっている。なお、県立喜多方病院と県立会津総合病院については統合のうえ、平成 25 年 5 月 12 日より福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターとしてスタートしている。
(平成 26 年 3 月 1 日現在)

病院名	開設年月	標榜診療科名 ()は非常勤医師の診療科 【 】は休診中の診療科	病 床 数 (許 可)					看護体制	職 員 数								
			一般	結核	精神	感染症	計		医師	看護	薬剤	給食	医療 技術 職	事務	その他 職員	H26.3 合計	H25.3 合計
矢 吹	昭和 30 年 11 月	精神科,内科,(歯科)			206		206	15 対 1 看護補助加算 1	7	91 (10)	4 (1)	8 (2)	13	6	1	130 (13)	125 (11)
宮 下	昭和 26 年 11 月	内科,外科 (整形外科),(皮膚科) (耳鼻いんこう科),(神経精神 科),(循環器内科)	32				32	7 対 1	3	22	3 (1)	2	3 (1)	5	0	38 (2)	35 (1)
南 会 津	昭和 24 年 7 月	内科,外科,整形外科 耳鼻いんこう科,麻酔科 小児科,(眼科),(神経内科) (婦人科)【産科】,(皮膚科) (神経精神科),(泌尿器科)	98				98	7 対 1	11	89 (3)	5 (1)	1	17 (2)	7	0	130 (6)	122 (3)
大 野 休止中	昭和 26 年 12 月	【内科】，【消化器科】，【外科】 【整形外科】，【小児科】 【麻酔科】，【眼科】，【呼吸器 科】，【泌尿器科】，【産婦人科】	146			4	150	7 対 1									
	いわき拠点・本局								0	9	0	0	0	1	0	10	12
	県他部局等									0	30	1	5	6	0	0	42
合 計			276	0	206	4	486		21	241	13	16	39	19	1	350	349

再任用職員は含まない。
カッコ内は大野病院職員。

1 策定の主旨

県立病院事業は、平成 16 年 4 月から地方公営企業法の全部適用に移行し、平成 19 年 3 月末に 3 病院 1 診療所を廃止・移譲して 6 病院体制となった。福島県病院事業経営改善計画（平成 19 年 3 月 26 日行財政改革推進本部県立病院改革部会報告。以下「経営改善計画」という。）に基づき、医療機能の充実強化や経営改善に取り組んできた。

しかしながら、医師不足の深刻化等により、医療提供体制の維持が極めて厳しく、医療機能を十分に発揮できない状況にあり、また、常勤医師の退職や短期交替等に伴う診療体制の変更等による患者数の減少や、診療報酬のマイナス改定の影響などにより、多額の赤字が生じるなど、これまでにない厳しい経営状況となった。

こうしたことから、県として、平成 19 年 12 月の国の「公立病院改革ガイドライン」の趣旨を踏まえ、県立病院の在り方を再整理するとともに、経営改善計画の取組みを加速し、『地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化』を基本目標とする「福島県県立病院改革プラン」を平成 21 年 5 月に策定した。

2 県立病院の在り方

地域に必要な医療を安定的かつ継続的に提供できる体制の構築を図ることを基本として、以下の見直しを行う。

病院名	果たすべき役割	経営形態
矢吹病院	民間病院では処遇困難な患者の受入れなどの精神医療の提供	県立病院として経営
会津医療センター （会津総合と喜多方）	1 「診療」・「教育」・「研究」の 3 つの機能を柱とする 2 地域医療の確保や人材の育成等の拠点と位置づける	県立医科大学の附属病院に移行
宮下病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
南会津病院	へき地における医療提供	県立病院として経営
大野病院	1 医療拠点としての中核的機能 2 二次救急医療への対応	双葉厚生病院と統合する方向で検討

3 行動計画

「親切・信頼・進歩」という県立病院基本理念の下、政策医療の確保を始め、地域に必要とされる質の高い医療の提供と病院経営の健全化に向け、以下の 5 つの基本方針により取り組む。

基本方針
1 良質な医療サービスの提供
2 収益確保と費用削減による健全な病院経営
3 医療提供体制の充実強化
4 職員の資質向上と人材育成
5 地域との連携共生

4 収支計画

上記の基本方針に基づき、病院経営の健全化に向けた目標を設定し、具体的な取組みを確実に実行する。

【経営健全化に向けた収支目標】

目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。

目標 2：平成 23 年度までに資金不足の解消を目指す。

5 計画期間

平成 21 年度から平成 25 年度までの 5 年間

6 進行管理

進捗状況については、毎年、有識者で構成される「県立病院事業経営評価委員会」の評価を受けるとともに、ホームページ等で公表する。

診療報酬の改定や患者の動向など、県立病院を取り巻く環境の変化に対応するため、必要に応じ、適切な見直しを行う。

1 自己評価方法について

改革プランの取組状況については、下記の『県立病院の在り方』、『行動計画の基本方針 1 ～ 5 に掲げる 11 の共通目標』、『全体の収支計画』に対して、右記の 5 段階の評価基準により自己評価を行った。

評価項目		
在り方	矢吹病院	
	宮下病院	
	南会津病院	
	大野病院	
行動計画	基本方針 1	医療の質の向上
		患者サービスの向上
	基本方針 2	収益の確保
		未収金の発生防止と早期回収の強化
		費用の見直し
		診療体制及び経営基盤の強化
	基本方針 3	医療安全対策の強化
	基本方針 4	人材の育成と確保
		職員の意識改革
	基本方針 5	地域医療機関等との連携
		県民への情報提供
収支計画	県立病院事業の収支計画	
	矢吹病院	
	会津総合病院	
	宮下病院	
	南会津病院	
	大野病院	

2 自己評価基準について

次の 2 つの観点から自己評価を行った。

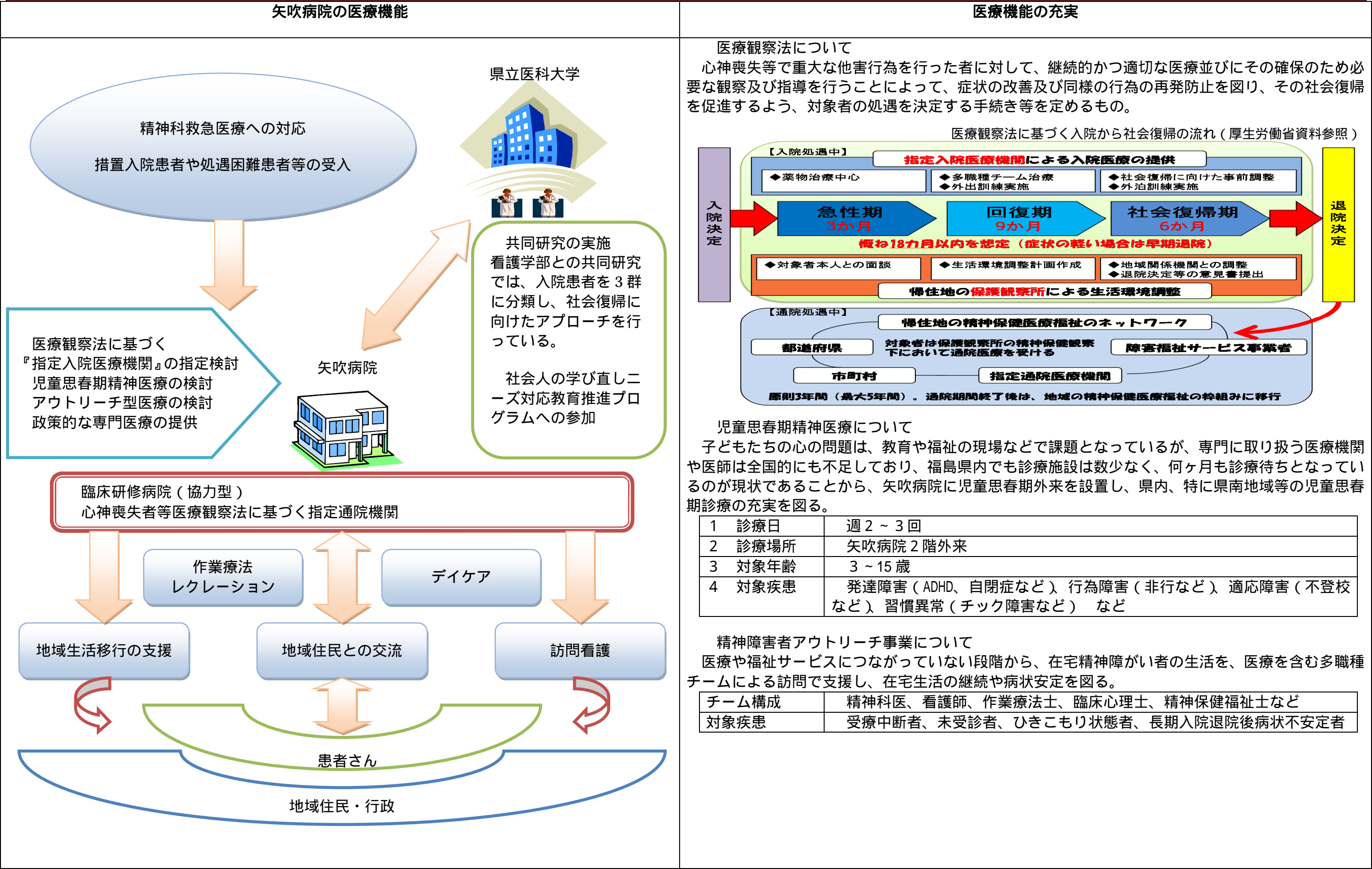
平成 25 年度目標値の『達成状況』（定量的評価）
（計算式）当該年度実績値 / 当該年度目標値 × 1 0 0
目標値を達成するための『取組状況』（定性的評価）

目標値達成状況の自己評価（定量評価）		取組状況の自己評価（定性評価）	
【 5 】	目標値を上回った 達成度 1 0 0 % 以上 1 2 0 % 未満	【 5 】	極めて積極的に行われている
【 4 】	目標値を達成できた 達成度 9 0 % 以上 1 0 0 % 未満	【 4 】	積極的に行われている
【 3 】	目標値をほぼ達成できた 達成度 7 0 % 以上 9 0 % 未満	【 3 】	取り組んでいる
【 2 】	目標値を下回った 達成度 5 0 % 以上 7 0 % 未満	【 2 】	消極的である
【 1 】	目標値を大きく下回った 達成度 5 0 % 未満	【 1 】	実施に至っていない

1 矢吹病院

(医師数： 7 人・病床数 206 床・精神病院)

	改革プランの内容		平成 25 年度の取組状況及び自己評価																		
役 割	果たすべき役割	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入れなどの精神医療提供	取組状況自己評価		【 5 】	極めて積極的に行われている															
	経営形態	県立病院として経営																			
医 療 機 能	措置入院患者や処遇困難患者の受入体制の充実強化	措置入院患者や民間病院では受入が難しい処遇困難患者等の受入体制の充実強化を図る。	保護室の空床確保のため、隔離期間の短縮・早期解放を実施するなど、措置入院患者や処遇困難患者の積極的な受け入れを行った。 <table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>措置入院患者数</td><td>10 人</td><td>10 人</td><td>6 人</td></tr><tr><td>処遇困難患者数</td><td>22 人</td><td>12 人</td><td>8 人</td></tr></table>				項目	H 25	H 24	H 23	措置入院患者数	10 人	10 人	6 人	処遇困難患者数	22 人	12 人	8 人			
	項目	H 25	H 24	H 23																	
	措置入院患者数	10 人	10 人	6 人																	
	処遇困難患者数	22 人	12 人	8 人																	
	心神喪失者等医療観察法に基づく患者への支援	心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った者に対する医療の確保と社会復帰への支援を行うため、現在の心神喪失者等医療観察法に基づく「指定通院医療機関」に加え、指定入院医療機関としての指定についても検討を行う。	医療観察法病棟開設について、平成 24 年度は矢吹町の町長、町議会から相次いで反対の意思表示が示されたことから、冷却期間をおくこととなった。 平成 25 年度は一連の町の反応に配慮し、整備計画を縮小（小規模病棟　小規格病棟）したうえで、改めて矢吹町に対し説明を行った。 地域との信頼関係が重要であることから、25 年 10 月に院内イベントを開催（新規）し、地域住民との交流を図るとともに、バザー売上金を矢吹町に寄附するなど地域との関係づくりに努めた。																		
	患者の地域生活移行への支援	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、患者の地域生活移行を引き続き進めるとともに、退院後も患者が地域の中で安心して暮らしていけるよう支援を強化する。	精神保健福祉士 (PSW) を中心とした地域受け入れ先との調整、多職種による訪問看護、外来作業療法、デイケアの実施など、退院後の生活支援体制の充実を図った結果、退院数が 135 名と過去最高となった。 <table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>訪問看護</td><td>7.2 人/日（76 人）</td><td>7.3 人/日（82 人）</td><td>6.9 人/日（73 人）</td></tr><tr><td>デイケア</td><td>15.1 人/日(48 人)</td><td>17.6 人/日(52 人)</td><td>15.0 人/日(50 人)</td></tr></table> （　　）内は登録者数				項目	H 25	H 24	H 23	訪問看護	7.2 人/日（76 人）	7.3 人/日（82 人）	6.9 人/日（73 人）	デイケア	15.1 人/日(48 人)	17.6 人/日(52 人)	15.0 人/日(50 人)			
	項目	H 25	H 24	H 23																	
訪問看護	7.2 人/日（76 人）	7.3 人/日（82 人）	6.9 人/日（73 人）																		
デイケア	15.1 人/日(48 人)	17.6 人/日(52 人)	15.0 人/日(50 人)																		
政策的な専門医療の実施	県内の精神医療をリードする役割を果たすため、県立医科大学等との連携強化を図りながら、児童思春期、ストレスケア等の政策的な専門医療の実施に向けて検討する。	県立医科大学との連携の下、児童思春期外来の診療を通年で実施した。 <table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23 (H23.8 ～)</td></tr><tr><td>児童思春期外来患者数</td><td>629 人</td><td>515 人</td><td>178 人</td></tr><tr><td>うち新患者数</td><td>82 人</td><td>81 人</td><td>56 人</td></tr><tr><td>うち再診患者数</td><td>547 人</td><td>434 人</td><td>122 人</td></tr></table>				項目	H 25	H 24	H 23 (H23.8 ～)	児童思春期外来患者数	629 人	515 人	178 人	うち新患者数	82 人	81 人	56 人	うち再診患者数	547 人	434 人	122 人
項目	H 25	H 24	H 23 (H23.8 ～)																		
児童思春期外来患者数	629 人	515 人	178 人																		
うち新患者数	82 人	81 人	56 人																		
うち再診患者数	547 人	434 人	122 人																		
精神科救急医療への対応	精神科救急医療システム指定医療機関（救急輪番制）に指定されており、引き続き救急医療を実施する。	昨年度と同様に月 5 ～ 6 回程度の救急輪番を担当した。平成 25 年度は、夜間 70 回、休日 14 回、空床 60 回を実施し、受診件数 24 件、入院件数 11 件、相談 47 件であった。																			
	臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や白河厚生総合病院等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	白河厚生総合病院から 6 名、公立岩瀬病院から 2 名の臨床研修医を受け入れた。 県立医科大学附属病院や奥羽大学歯学部附属病院からも指定を受けており、要請があれば研修、教育を実施していく。																		
規 模	地域生活支援体制の充実・強化を図り、入院患者の地域生活移行を促進するとともに、心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定も視野に入れながら、平成 24 年度に 4 病棟から 3 病棟とする病棟再編を実施する。		未実施。																		



2 宮下病院

(医師数：3 人 病床数 32 床)

	改革プランの内容		平成 25 年度取組状況及び自己評価					
役 割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価	【 3 】	取り組んでいる			
	経営形態	県立病院として経営						
医 療 機 能	急性期医療の実施	県医療計画において「へき地医療拠点病院」に指定されており、当診療圏唯一の病院として緊急の内科的・外科的処置に対応する医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、この地域に不足している、高齢者に多い運動器や感覚器の疾患に対応する医療（整形外科、眼科、耳鼻咽喉科等）を提供する。	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。					
			診療科名	H25	H24	H23		
			整形外科	4 回 / 月	2 回 / 月	2 回 / 月		
			神経精神科	1 回 / 週	1 回 / 隔週	1 回 / 隔週		
			耳鼻咽喉科	2 回 / 月	2 回 / 月	2 回 / 月		
			皮膚科	2 回 / 月	2 回 / 月	2 回 / 月		
			循環器内科	1 回 / 月	-	-		
			国保診療所等への医師派遣を継続するとともに、患者情報の共有化を図りながら、相互協力・連携を深めた。					
			場所	実施日	H25	H24	H23	
			柳津町国民健康保険診療所	毎週金曜日	43 回 / 年	44 回 / 年	51 回 / 年	
		金山町国民健康保険診療所	毎週水曜日	47 回 / 年	192 回 / 年	196 回 / 年		
		特別養護老人ホーム桐寿苑	毎週火曜日（管理医）	50 回 / 年	50 回 / 年	48 回 / 年		
		地域の方々が安心して在宅療養していただけるように訪問診療・訪問看護を実施した。						
		項目	H25		H24		H23	
			対象者	実施回数	対象者	実施回数	対象者	実施回数
		訪問診療	15 人	1 回/月（84 件）	18 人	1 回/月(121 件）	22 人	1 回/月(131 件）
		訪問看護	8 人	2 回/月（44 件）	5 人	2 回/月（10 件）	7 人	2 回/月（46 件）
	臨床研修協力施設としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修協力施設として、臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修・教育を行い、地域医療への理解と動機付けの機会とした。					
			項目	H25	H24	H23		
			臨床研修協力施設として初期研修医の受入	1 人	1 人	2 人		
			会津保健福祉事務所との連携によるへき地医療体験研修の受入	10 人	5 人	7 人		
	地域住民の健康増進への支援	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進への支援を行う。	地域住民の健康増進を図るため、健康診断や人間ドックなどを実施したほか、地域に出向く活動も積極的に展開した。					
			項目	H25	H24	H23		
			健康診断実施人数	229 人	273 人	226 人		
			人間ドック実施人数	18 人	19 人	5 人		
			健康診断事業受託件数	26 件	16 件	19 件		
			院内健康教室の開催	年 22 回・148 人	年 13 回・99 人	年 6 回・56 人		
			心ある医療「出前講座」の開催	年 21 回・417 人	年 29 回・541 人	年 18 回・396 人		
規 模	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を踏まえ、平成 21 年度に病床数を削減（55 床 32 床）する。（実施済）		平成 21 年 4 月に 55 床から 32 床へ病床変更を行った。					

宮下病院の医療機能	医療機能の充実						
<p>The diagram illustrates the medical functions and regional collaboration of Miyashita Hospital. At the top, a light blue box represents 'Local residents, patients, health/welfare facilities, and administrative organizations'. Below this, a green box represents the 'Miyashita Hospital Support Association'. A central vertical orange double-headed arrow labeled 'Exchange and Trust' connects the top box to the support association. To the left of this arrow, an orange box mentions 'Nursing facilities and joint care meetings'. Below this, three circles represent 'Nursing health facilities', 'Yanagitsuru Clinic', and 'Kansai Clinic'. A vertical green bar labeled 'Medical Support' is positioned to the left of the central arrow. To the right of the support association, a blue box mentions 'Home medical support'. Below this, a red box represents 'Hekiichi Medical Base Hospital and Clinical Training Hospital (Cooperation Type)'. A vertical orange double-headed arrow labeled 'Support' connects the support association to this red box. To the right of the support association, two blue boxes represent 'Home medical support' and 'Home medical support'. Below the red box, a blue box represents 'Emergency patient admission'. At the bottom, a blue box represents 'Clinical training for doctors and students, and medical education'. To the right of this box, a blue box represents 'Medical staff dispatch'. At the very bottom, three icons represent 'Autonomous Medical University', 'Prefectural Medical University', and 'Prefectural Aizumi General Hospital'.</p>	<p>《平成 25 年度の取組状況》</p> <table border="1"> <tr> <td>地域医療連携活動</td><td>医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 診療圏町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を毎月掲載してもらった。</td></tr> <tr> <td>地域住民との交流</td><td>看護の日を広く地域住民に知ってもらうため、5 月 10 日に院内イベントを開催した。 《イベントの内容》 ・ 血圧や骨密度の測定 ・ アロマオイルを用いたハンドマッサージの実施 ・ 栄養相談や手洗い体験、防災グッズの展示 など</td></tr> <tr> <td>心ある医療・出前講座</td><td>当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（21 回・417 人参加） 《出前講座メニュー》 ・ 元気をつくる食習慣～バテない食事とは～ ・ 生活習慣病ってどういうこと？～ちょっぴり運動を続けよう～ ・ いつまでも元気に～「新老人の会」3 つのスローガン など</td></tr> </table>	地域医療連携活動	医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 診療圏町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を毎月掲載してもらった。	地域住民との交流	看護の日を広く地域住民に知ってもらうため、5 月 10 日に院内イベントを開催した。 《イベントの内容》 ・ 血圧や骨密度の測定 ・ アロマオイルを用いたハンドマッサージの実施 ・ 栄養相談や手洗い体験、防災グッズの展示 など	心ある医療・出前講座	当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（21 回・417 人参加） 《出前講座メニュー》 ・ 元気をつくる食習慣～バテない食事とは～ ・ 生活習慣病ってどういうこと？～ちょっぴり運動を続けよう～ ・ いつまでも元気に～「新老人の会」3 つのスローガン など
地域医療連携活動	医療・保健・福祉関係機関連絡会議を年 2 回開催し、関係機関との情報共有を行った。 診療圏町村（柳津町、三島町、金山町、昭和村）の広報誌に当院の情報（医療に関する情報や医師紹介など）を毎月掲載してもらった。						
地域住民との交流	看護の日を広く地域住民に知ってもらうため、5 月 10 日に院内イベントを開催した。 《イベントの内容》 ・ 血圧や骨密度の測定 ・ アロマオイルを用いたハンドマッサージの実施 ・ 栄養相談や手洗い体験、防災グッズの展示 など						
心ある医療・出前講座	当院の医師、看護師、薬剤師等が地域に出向き健康づくりに関する講演等を行った。（21 回・417 人参加） 《出前講座メニュー》 ・ 元気をつくる食習慣～バテない食事とは～ ・ 生活習慣病ってどういうこと？～ちょっぴり運動を続けよう～ ・ いつまでも元気に～「新老人の会」3 つのスローガン など						

3 南会津病院

(医師数：11 人 病床数 98 床)

	改革プランの内容		平成 25 年度取組状況及び自己評価														
役 割	果たすべき役割	へき地における医療提供	取組状況自己評価	【 ４ 】	積極的に行われている												
	経営形態	県立病院として経営															
医 療 機 能	性期医療の実施	南会津地域保健医療圏における唯一の病院として、入院・専門外来に係る医療機能を確保し、会津総合病院や開院後の会津医療センターの支援を受けながら、急性期医療を実施する。	神経精神科については、平成 25 年 5 月より会津医療センター医師の診療応援を受け、診療日を 1 回/月増やすことができた。 小児科については、引き続き常勤医 1 名を配置し、体制を維持した。														
	へき地における医療の確保	へき地医療拠点病院として、公的診療所への派遣機能の維持など、へき地医療を提供する。	国保診療所への医師派遣を行った。 <table><tr><th>場 所</th><th>H 25</th><th>H 24</th><th>H 23</th></tr><tr><td>只見町国民健康保険朝日診療所</td><td>23 回 / 年</td><td>22 回 / 年</td><td>23 回 / 年</td></tr></table> 会津総合病院へ麻酔科医を派遣した。				場 所	H 25	H 24	H 23	只見町国民健康保険朝日診療所	23 回 / 年	22 回 / 年	23 回 / 年			
	場 所	H 25	H 24	H 23													
	只見町国民健康保険朝日診療所	23 回 / 年	22 回 / 年	23 回 / 年													
	救急医療への対応	県医療計画において第二次救急医療機関に位置付けられており、引き続き救急医療を実施する。	時間外患者数は 4,484 人であり、対前年度比で 89 人の減となった。また、救急車の受入回数は 789 回であり、対前年度比で 35 回の減となった。														
	災害時医療への対応	大規模災害、重篤救急患者の救命医療に対応するため、地域災害医療センターとして、引き続き災害時医療を実施する。	災害拠点病院の指定要件となった災害派遣チーム（ D M A T ）を設置するため、 D M A T 隊員の養成に向けて災害派遣医療チーム研修（平成 25 年度第 14 回研修）へ参加、 5 名の隊員を確保し、災害時における医療提供体制の充実を図った。このほか、多数傷病者対応訓練への参加など、災害対応機能の強化に向けた取り組みを実施した。														
	総合的な医療提供体制の確立	広大な面積を有する診療圏において、患者の利便性を考慮する必要があることから、地域の中核病院として、二次医療を中心に、診断・治療からリハビリテーションに至る総合的な医療提供体制の確立を目指す。	リハビリテーションについては、引き続き、地域リハビリテーション広域支援センターに指定され、理学療法士 3 名体制及び柔道整復師 1 名体制で充実した活動が展開された。 療養環境の向上を図るため、院内コンサートを開催した。 今後は、地域のニーズ等も勘案しながら、回復期、療養期、緩和期、終末期など様々な医療サービスの提供について、検討を進めていく必要がある。														
	臨床研修病院としての研修・教育機能の展開	県立医科大学や自治医科大学等と連携しながら、臨床研修病院（協力型）として臨床研修医や学生への研修、教育を行う。	臨床研修医や学生への研修、教育を行い、地域医療への理解と動機付けの機会とした。 <table><tr><th>項 目</th><th>H 25</th><th>H 24</th><th>H 23</th></tr><tr><td>卒後臨床研修</td><td>1 人</td><td>0 人</td><td>1 人</td></tr><tr><td>地域医療実習（自治医大生）</td><td>2 人</td><td>3 人</td><td>2 人</td></tr></table>				項 目	H 25	H 24	H 23	卒後臨床研修	1 人	0 人	1 人	地域医療実習（自治医大生）	2 人	3 人
項 目	H 25	H 24	H 23														
卒後臨床研修	1 人	0 人	1 人														
地域医療実習（自治医大生）	2 人	3 人	2 人														
地域住民の健康増進への支援	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドック等による疾病の予防、早期発見・治療等を通じ、地域住民の健康増進への支援を行う。	健康診断実施人数は 774 人となり、対前年度比で 24 人の減となった。そのうち、人間ドック実施人数は 197 人となり、対前年度比で 32 人の増となった。 <table><tr><th>項 目</th><th>H 25</th><th>H 24</th><th>H 23</th></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>774 人</td><td>798 人</td><td>961 人</td></tr><tr><td>うち人間ドッグ</td><td>197 人</td><td>165 人</td><td>181 人</td></tr></table> 病院広報紙「かけはし」を 3 回発行し、うち 2 回は郡内全戸に配布するなど、病院の存在をあらためて地域にアピールした。また、出前講座等については、地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣した。（派遣回数：医師 6 回、看護師 2 回、理学療法士 5 回）				項 目	H 25	H 24	H 23	健康診断実施人数	774 人	798 人	961 人	うち人間ドッグ	197 人	165 人	181 人
項 目	H 25	H 24	H 23														
健康診断実施人数	774 人	798 人	961 人														
うち人間ドッグ	197 人	165 人	181 人														
規 模	診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 21 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編し、病床数を削減（150 床 100 床）する。（実施済）		平成 21 年 4 月に 150 床から 100 床へ病床変更を行った。 平成 25 年 4 月に 100 床から 98 床へ病床変更を行った。														

南会津病院の医療機能	医療機能の充実				
<div><p>地域住民、患者さん、地元医師会、保健・介護・福祉施設、行政機関</p><p>地域医療協議会</p><p>診療圏唯一の病院として救急医療の受入</p><p>地域住民の健康健康診断・人間ドック</p><p>透析設備の充実</p><p>介護保健施設等</p><p>支援</p><p>南会津病院</p><p>只見町朝日診療所</p><p>診療応援</p><p>南会津地方広域市町村圏組合地域医療支援センター</p><p>へき地医療拠点病院 救急告示病院 臨床研修病院（協力型） 地域災害医療センター</p><p>臨床研修医・学生への研修、教育</p><p>医師派遣</p><p>自治医科大学</p><p>県立医科大学</p><p>県立会津総合病院</p><p>民間病院</p><p>連携</p></div>	<p>《平成 25 年度の取組状況》</p> <table><tr><td>地域医療連携活動</td><td>医療・福祉等の関係者との懇談会や学術セミナー等を開催するなど、地域連携の推進を図り、紹介率の向上に努めた。 (H24 紹介率 13.6% H25 紹介率 14.2%) 地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣した。 (H24 派遣回数 9 回 H25 派遣回数 13 回)</td></tr><tr><td>透析設備の充実</td><td>平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数について、延べ人数では対前年度比で 419 人の増、3 月末の実人員では 2 人増の 42 人となった。</td></tr></table> <p>平成 21 年度に策定された「福島県地域医療再生計画」(会津・南会津医療圏)に掲げる下記の事業を活用しながら、南会津病院の機能向上を図った。</p> <p>「南会津病院機能向上事業(H22～H25)」</p> <p>南会津医療圏唯一の病院である県立南会津病院の機能向上を図りながら、会津医療圏の民間病院との連携と役割分担を進めるため、特に予防医療及び回復期の患者の受入に必要な医療機器の整備等を行う。 マンモグラフィ、CR システムの導入を行い、医療機能の充実を行った。</p> <p>地域医療支援病院であり地域周産期母子医療センターを有する竹田総合病院と県立会津総合病院や只見町朝日診療所を始めとするへき地診療所をネットワークシステムで結び、患者さんの利便性向上を図りながら、検査や処方、画像データの診療情報の共有化を行い、医療機関どうしの地域連携を促進して、急性期から在宅まで一貫した質の高い診療を行う。 なお、電子カルテシステムが未整備の病院・へき地診療所については、電子カルテシステムの導入を併せて行う。 電子カルテシステム及び地域医療連携ネットワークシステムの導入を行った。</p>	地域医療連携活動	医療・福祉等の関係者との懇談会や学術セミナー等を開催するなど、地域連携の推進を図り、紹介率の向上に努めた。 (H24 紹介率 13.6% H25 紹介率 14.2%) 地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣した。 (H24 派遣回数 9 回 H25 派遣回数 13 回)	透析設備の充実	平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数について、延べ人数では対前年度比で 419 人の増、3 月末の実人員では 2 人増の 42 人となった。
地域医療連携活動	医療・福祉等の関係者との懇談会や学術セミナー等を開催するなど、地域連携の推進を図り、紹介率の向上に努めた。 (H24 紹介率 13.6% H25 紹介率 14.2%) 地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣した。 (H24 派遣回数 9 回 H25 派遣回数 13 回)				
透析設備の充実	平成 21 年度に透析機器を 7 台増設し、19 台とした。 透析患者数について、延べ人数では対前年度比で 419 人の増、3 月末の実人員では 2 人増の 42 人となった。				

5 大野病院

(休止中 病床数 150 床)

			改革プランの内容		平成 25 年度取組状況及び自己評価			
役割	果たすべき役割		医療拠点としての中核的機能・二次救急医療への対応			取組状況自己評価	-	-
	経営形態		福島県厚生農業協同組合連合会が運営する双葉厚生病院と統合する方向で検討					
医療機能	統合により目指すもの	診療機能の強化と医療サービスの向上	病院の機能強化や診療体制の充実等により、常勤医師のいる診療科の増加、複数医師の診療体制による診療内容の充実、併科受診の容易性の向上など医療サービスの向上を図る。					
		救急医療など政策医療の充実	病院の機能強化や診療体制の充実等により、救急患者の受入幅を拡大し、双葉郡内の搬送率を高めるなど、双葉地域の救急医療の向上を図る。					
		医師の勤務環境の向上等による医師の確保	医師の適正配置等により、医師の勤務環境を向上させ、新たな医師の確保を図る。					
	病院機能の在り方	統合に向けた詳細計画の策定に当たっては、県、福島県厚生農業協同組合連合会、大野病院及び双葉厚生病院の院長、地元町村会、地元医師会等から構成される（仮称）計画策定委員会を設置して、検討を行う。						
		大野病院の経営改善 診療圏の人口動向や今後の患者数見込みなどを踏まえ、平成 22 年度に 3 病棟から 2 病棟へ病棟再編を検討する。						

基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点）

【改革プラン方針】		平成 25 年度取組状況及び自己評価				
地域住民の医療ニーズに的確に対応しながら、『質の高い医療サービスの提供』と『安らぎのある落ち着いた医療環境を提供できる患者サービスの向上』を通じ、患者さんの満足度の向上を図る。						
目標 1	医療の質の向上	目標値達成状況評価		取組状況評価		
		【 - 】	目標値は設定していないため	【 5 】	極めて積極的に行われている	
<p>〔政策医療や予防医療の充実〕</p> <p>民間医療機関等では対応が困難なへき地医療や精神・感染症医療等政策医療を安定して提供するとともに、保健・医療・福祉の連携により、県医療計画に定める 4 疾病 5 事業 や生活習慣病対策などの予防医療等の充実を図る。</p> <p>4 疾病 5 事業</p> <ul style="list-style-type: none">・ 4 疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）・ 5 事業（救急医療、災害時における医療、へき地の医療、周産期医療、小児医療） <p>〔病院活性化による医療の質的向上〕</p> <p>医師とコメディカルスタッフとの連携したチーム医療に取り組むとともに、病院内部の様々な委員会の活性化を図ることにより、医療の質を確保する。</p> <p>〔病院機能評価の取得〕</p> <p>病院機能評価の取得を通じて、病院機能の向上を図るとともに、患者さんの権利や安全・安心を確保するための体制整備を行う。</p> <p>〔説明責任の発揮〕</p> <p>患者さんとの信頼関係を構築するため、治療内容等について十分に説明を行い、患者さんの意見を尊重しながら同意を得た上で治療を実施するインフォームド・コンセントの充実を図る。</p>		1 政策医療や予防医療の実施について				
		病院名		取組状況		
		矢吹病院		児童思春期外来では、コモンセンスペアレンティング（ペアレントトレーニングの一つ）を活用して、子どもをうまくしつける具体的な方法を身につけることができるプログラムを実施した。また、ペアレントトレーニング修了者を対象に児童思春期家族教室を実施し、同じような特徴を持つお子さんの保護者同士で情報交換ができる場を設けた。		
		宮下病院 南会津病院		「へき地医療拠点病院」として、国保診療所等への医師派遣を行った。		
				【医師派遣回数】		
				年度	宮下病院	南会津病院
				H25	140 回	23 回
				H24	286 回	22 回
				H23	295 回	30 回
		2 病院活性化による医療の質的向上について				ケースワーカーや作業療法士、臨床心理士、訪問・外来看護師、デイケア等職員が連携し、患者さんの地域生活移行への支援を行った。（矢吹病院）
3 病院機能評価取得について				財団法人日本医療機能評価機構から Ver 6 の認定取得を行った。		
病院名		Ver 4 又は 5 認定期間		Ver 6 認定		
矢吹病院		17 年 3 月～22 年 3 月		認定 【平成 22 年 3 月～平成 27 年 3 月】		
南会津病院		18 年 3 月～23 年 3 月		認定 【平成 23 年 3 月～平成 28 年 3 月】		
宮下病院		19 年 2 月～24 年 2 月		認定 【平成 24 年 2 月～平成 29 年 2 月】		
4 説明責任の発揮について				「仁愛・誠意・献身～思いやりと真心で患者さんに尽くします～」の基本理念の下、引き続きインフォームド・コンセントに取り組んだ。（矢吹病院）		
				各種様式を見直し、患者さんやご家族にとってより分かりやすい内容にした。（宮下病院）		
				カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が図られ、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など、医療の質の向上につながった。（南会津病院）		

目標 2	患者サービスの向上	目標値達成状況		取組状況評価	
		【 4 】	目標を達成できた	【 4 】	積極的に行われている
<p>[実践的な接客能力向上]</p> <p>患者さんの立場を考えて行動することができる心ある職員となることを目指し、患者さんを尊重した言葉遣いや応待を実践するロールプレイなどの実践的な学習方法などを取り入れた接客研修会を定期的に行い、職員の接客能力の向上を図る。</p> <p>[病院全体の業務改善]</p> <p>患者さんにより良質なサービスを提供するため、待ち時間の短縮を始めとする業務改善に職員が一丸となって取り組む。</p>		《平成 25 年度の取組状況》			
		1 接客能力向上について			
		各病院において、接客向上委員会や研修会を実施し、職員の接客能力の向上に努めた。			
		患者さんの病院への評価や満足度を把握し、その問題点の改善や満足度の向上を図るため、患者満足度調査を実施した。			
		【患者満足度調査結果】			
			H25	H24	H23
		矢吹病院	63.5%	63.0%	-
		宮下病院	83.8%	69.4%	-
		南会津病院	80.6%	82.2%	-
		23 年度は震災対応のため、未実施。			
2 業務改善について					
予約制を導入し、待ち時間の短縮に努めた。					
無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上を図った。（矢吹、宮下病院）					
【無料送迎バス利用者数】					
病院名	H 25	H 24	H 23	運行概要	
矢吹病院	6,136 人	5,401 人	4,442 人	矢吹病院～矢吹駅間(迎え 2 便/日、送り 5 便/日) 矢吹病院～矢吹駅～メガステージ (送り 1 便/週)	
宮下病院	3,982 人	3,822 人	3,930 人	宮下病院～柳津・三島・金山町間 (3 往復/日)	
待ち時間を活用した院内健康教室の開催や、院内ギャラリーにおける地域住民の作品の展示などを通じて、待ち時間に対する苦痛軽減に努めた。（宮下、南会津病院）					
共通目標指標					
患者満足度					
<div><div>H21実績 77.4%</div><div>H22実績 75.1%</div><div>H23実績 -%</div><div>H24実績 71.5%</div><div>H25目標 85%以上</div><div>H25実績 76.0%</div></div>					
23 年度は震災対応のため、未実施					

目標１：医療の質の向上（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成 25 年度取組状況	取組評価						
1	共通取組	病院機能評価の認証更新	医療の質の向上と信頼の確立を目的として、財団法人日本医療機能評価機構が中立的な立場で医療機関の機能を評価・審査する病院機能評価の認定更新を図る。	財団法人日本医療機能評価機構から Ver 6 の認定取得を行った。〔再掲 P 11〕	5 (5)						
2		インフォームド・コンセントの充実	良質な医療の提供を図るため、患者さんに対する的確な診断と治療はもとより、診断内容、治療計画さらには副作用やリスク等を含めて十分説明し、患者さんが理解、納得した上で治療行為を選択していくインフォームド・コンセントの充実を図る。	「仁愛・誠意・献身～思いやりと真心で患者さんに尽くします～」の基本理念の下、引き続きインフォームド・コンセントに取り組んだ。(矢吹病院)〔再掲 P 11〕 各種様式を見直し、患者さんやご家族にとってより分かりやすい内容にした。 (宮下病院)〔再掲 P 11〕 カルテを電子化したことにより、診療情報の共有化が図られ、インフォームド・コンセントやチーム医療の充実など、医療の質の向上につながった。(南会津病院)〔再掲 P 11〕	4 (4)						
3	矢吹病院	訪問看護の充実検討	今後とも新規退院患者などへのきめ細かな訪問看護を実施する。	外来治療の一環として訪問看護を実施した。 【訪問看護 1 日平均患者数】 <table><tr><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>7.2 人 / 日</td><td>7.3 人 / 日</td><td>6.9 人 / 日</td></tr></table>	H 25	H 24	H 23	7.2 人 / 日	7.3 人 / 日	6.9 人 / 日	5 (5)
H 25		H 24	H 23								
7.2 人 / 日	7.3 人 / 日	6.9 人 / 日									
4		デイケア(社会復帰訓練)の充実検討	料理や手芸、スポーツ、季節ごとの行事などのプログラムなどを行うなど、デイケアの充実強化を図る。	患者の個別的な関わりに重点をおいて、患者ニーズを引き出しながらデイケアを実施した。 【デイケア 1 日平均患者数】 <table><tr><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>15.1 人 / 日</td><td>17.6 人 / 日</td><td>15.0 人 / 日</td></tr></table>	H 25	H 24	H 23	15.1 人 / 日	17.6 人 / 日	15.0 人 / 日	4 (5)
H 25	H 24	H 23									
15.1 人 / 日	17.6 人 / 日	15.0 人 / 日									
5		心神喪失者等医療観察法に基づく指定入院医療機関としての指定検討	触法精神障害者の専門的入院治療と社会復帰を支援する医療体制の充実に向けて検討する。	医療観察法病棟開設について、平成 24 年度は矢吹町の町長、町議会から相次いで反対の意思表示が示されたことから、冷却期間をおくこととなった。〔再掲 P 4〕 平成 25 年度は一連の町の反応に配慮し、整備計画を縮小(小規模病棟 小規格病棟)したうえで、改めて矢吹町に対し説明を行った。〔再掲 P 4〕 地域との信頼関係が重要であることから、25 年 10 月に院内イベントを開催(新規)し、地域住民との交流を図るとともに、バザー売上金を矢吹町に寄附するなど地域との関係づくりに努めた。〔再掲 P 4〕 心神喪失者等医療観察法に関連する研修に職員を参加させるなど人材養成に努めた。	4 (3)						
6	宮下病院	診療圏域内唯一の病院として質の高い安定的な医療の提供	地域の方々が安全に安心して暮らしていけるよう、診療圏域内唯一の病院として、常勤医師の確保・定着に向けた取組みを強化していくとともに、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、高齢化が急速に進展する地域特性に対応した医療を継続して提供する。	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。〔再掲 P 6〕	4 (4)						
7		訪問診療・訪問看護による在宅医療への支援	地域の保健・医療・福祉関係機関との連携を強化しながら、訪問診療・訪問看護の充実を図り、在宅医療への支援を強化する。	地域の方々が安心して療養生活を続けられるように訪問診療・訪問看護を実施した。〔再掲 P 6〕	4 (4)						

行動計画取組状況（基本方針１：良質な医療サービスの提供（患者さんの視点））

8	宮下病院	健康診断・人間ドック事業の充実	健康診断を担当する内科医師を配置するとともに、受診項目の充実や料金体系の見直しを行い、健康診断・人間ドック事業の拡充を図る。	地域の医療機関や介護施設等とも連携しながら、健康診断、人間ドックによる疾病の予防、早期発見・治療等を通じて、地域住民の健康増進に取り組んだ。 <table><tr><td>項目</td><td>H25</td><td>H24</td><td>H23</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>229 人</td><td>273 人</td><td>226 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>18 人</td><td>19 人</td><td>5 人</td></tr><tr><td>医療相談収益（税込み）</td><td>3,886 千円</td><td>4,123 千円</td><td>3,547 千円</td></tr></table>	項目	H25	H24	H23	健康診断実施人数	229 人	273 人	226 人	人間ドック実施人数	18 人	19 人	5 人	医療相談収益（税込み）	3,886 千円	4,123 千円	3,547 千円	4 (5)
項目	H25	H24	H23																		
健康診断実施人数	229 人	273 人	226 人																		
人間ドック実施人数	18 人	19 人	5 人																		
医療相談収益（税込み）	3,886 千円	4,123 千円	3,547 千円																		
9	南会津病院	透析器機の増設による透析機能の強化	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析機器を7台増設して、計19台とした。 (平成21年度増設済み) <table><tr><td>項目</td><td>H25</td><td>H24</td><td>H23</td></tr><tr><td>透析の実患者数</td><td>42 人</td><td>40 人</td><td>40 人</td></tr></table>	項目	H25	H24	H23	透析の実患者数	42 人	40 人	40 人	4 (3)								
項目	H25	H24	H23																		
透析の実患者数	42 人	40 人	40 人																		
10		健康診断・人間ドック事業の充実	地域の要望に対応するため、平成20年度より開始した人間ドックの受診枠を拡大して充実を図る。	受診者が減少する冬場に割引キャンペーンを実施するなど、受診者確保に努めた。 <table><tr><td>項目</td><td>H25</td><td>H24</td><td>H23</td></tr><tr><td>健康診断実施人数</td><td>577 人</td><td>633 人</td><td>780 人</td></tr><tr><td>人間ドック実施人数</td><td>197 人</td><td>165 人</td><td>181 人</td></tr><tr><td>医療相談収益（税込み）</td><td>18,775 千円</td><td>16,310 千円</td><td>18,089 千円</td></tr></table>	項目	H25	H24	H23	健康診断実施人数	577 人	633 人	780 人	人間ドック実施人数	197 人	165 人	181 人	医療相談収益（税込み）	18,775 千円	16,310 千円	18,089 千円	5 (4)
項目	H25	H24	H23																		
健康診断実施人数	577 人	633 人	780 人																		
人間ドック実施人数	197 人	165 人	181 人																		
医療相談収益（税込み）	18,775 千円	16,310 千円	18,089 千円																		
11	大野病院	内科医師の確保による健康診断事業の充実	特定検診・特定保健指導や地域のニーズに対応できる健康診断事業の実施・充実に努める。	休止中	- (-)																

目標２：患者サービスの向上（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	平成 25 年度取組状況				取組評価
15	共通取組	患者アンケート調査や接遇向上委員会による接遇の向上	患者アンケート調査やご意見箱の設置などにより、患者さんのニーズや意見を把握できる体制を整えるとともに、定期的に接遇向上委員会を開催し、接遇技術の向上を図るための研修会やロールプレイ等の学習会を企画するなど、患者さんの立場に立った接遇サービスの向上を図る。	各病院の取組状況				4 (3)
				病院名	取組状況			
				矢吹病院	接遇サービスの向上を図るため、接遇研修会を開催した。（テーマ： 基本的な接遇マナー、 医療現場のコミュニケーションスキル、 ケース別対応など） 引き続き、精神科病院における接遇の重要性、病院選別化としての接遇について、啓蒙を図り、接遇の向上を図っていく。			
				宮下病院	接遇サービスの向上を図るため、接遇研修会を開催した。（テーマ： 病院職員としての接遇、 接遇の心構え、 ロールプレイングによる具体的なケーススタディ）			
				南会津病院	患者満足度調査の結果、外来の待ち時間に関する項目や入院の食事に関する項目において満足度が低かったことから、今後、改善に向けた状況の再分析と検討を実施したい。			
大野病院	-							
16	共通取組	外来待ち時間の短縮	外来予約システムの見直しを行うことで、予約診療の充実・拡充を図るとともに、外来待ち時間の短縮を推進し、患者さんが満足できる医療の提供に努める。	各病院の取組状況				3 (3)
				病院名	取組状況			
				矢吹病院	午後の再診予約に続き、平成 24 年 5 月からは午前の診察について予約制を導入した。			
				宮下病院	内科及び外科について予約診察を実施した。			
				南会津病院	外来待合い室に隣接するふれあいギャラリーでの地域住民等の各種展示や、会計窓口のある中央フロアでの接遇向・療養環境整備委員会の職員による季節に応じた飾りつけなどを実施し、待ち時間の苦痛軽減に配慮した。 院長主導による経営改善推進事業を活用して、小児科待合室に掲示用パネルを設置し、地域の子供たちの作品を展示するなど、和らぐ雰囲気作りにも努めた。			
大野病院	-							
17	宮下病院	無料送迎バスの効率的な運行	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスの効率的な運行に努める。	外来患者の利便性の向上を図るため、無料送迎バスを運行している。今後とも地域からの要望や利用状況を踏まえ、行き先や運行時刻の見直しを行うなど、効率的な運行に努めていく。				5 (4)
項目				H 25	H 24	H 23		
迎え乗車数				2,077 人（ 1 日平均 8.5 人）	1,954 人（ 1 日平均 7.9 人）	2,031 人（ 1 日平均 8.3 人）		
送り乗車数				1,905 人（ 1 日平均 7.8 人）	1,868 人（ 1 日平均 7.6 人）	1,899 人（ 1 日平均 7.8 人）		
18		院内イベントの開催	入院患者や当院への来院者が快適で安らぎのある時を過ごしていただけるよう、四季折々の飾り付けを行うとともに、院内コンサートを開催するなど、「癒しのある空間」の提供に努める。	院内イベント等の実施状況				5 (5)
				5 月 10 日	看護の日イベント（参加者約 36 人）			
				7 月	七夕飾り			
				7 月 5 日	七夕コンサート（参加者約 40 人）			
				9 月	お月見飾り			
				12 月	クリスマス飾り			
				12 月 20 日	クリスマスコンサート(参加者約 40 人)			
				1 月	正月飾り			
				3 月	雛飾り			
3 月 7 日	ひな祭りコンサート（参加者約 60 人）							

基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点）

【改革プラン方針】		平成 25 年度取組状況及び自己評価			
目標 1	収益の確保	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 ４ 】	目標値を達成できた	【 ５ 】	極めて積極的に行われている
<p>〔医療機能の充実〕</p> <p>医師確保による医療機能の充実を図るとともに、適切な施設基準の取得や診療報酬請求漏れの防止、査定率減少に取り組む。</p> <p>患者数の増加を図るため、健康診断の充実や特定保健指導の取組みを通じて、生活習慣病対策など予防医療に力を入れるとともに、透析などの特殊外来や訪問診療・訪問看護の充実に取り組む。</p> <p>〔機械備品等の整備〕</p> <p>質の高い医療の提供や収益確保を図るため、計画的に先進医療機器の導入を行う。</p>		1 医療機能の充実			
		各病院の診療報酬査定委員会では、査定内容の分析を行うとともに、結果について医師等へ知らせることで、院内全体の問題として改善等に努めた。加えて、適正に請求できる案件については再審査請求を行うなど、査定率の減少に努めた。			
		地域の方々が安心して療養生活を続けられるように訪問診療・訪問看護を実施した。 (宮下病院)〔再掲 P6〕			
		2 機械備品等の整備			
		医療機能の強化を図るため、高度医療、先進医療等に対応した医療機器等を整備した。 【平成 25 年度に整備した主な医療機器等】			
		病院名	品名	金額(千円)	概要
		矢吹病院	保温保冷配膳車	4,515	食事の運搬用台車。保温・保冷機能により最適な温度で食事を提供できる。
			医事システム	9,082	医事会計業務に使用するシステム。
			栄養管理システム	2,478	栄養管理業務に使用するシステム。
		宮下病院	内視鏡光源装置	5,985	ファイバースコープ、硬性鏡と組み合わせることで、目視検査に必要な照明光を供給する装置。
全身用コンピューター断層撮影装置	34,335		X線を使い身体の内부를画像化する装置。		
総合検診システム	5,964		検診業務に使用するシステム。		
南会津病院	高圧蒸気滅菌装置	27,300	手術器具や材料を滅菌する装置。		
	手術台	10,395	手術台。		
	デジタルX線TVシステム	29,849	X線を使い身体を透視しながら検査を行う装置。		

〔外部意見の導入〕

多様な取組みにより経営基盤の確立を図るため、病院経営の専門家など外部の方の意見を積極的に取り入れる。

３ 外部意見の導入

平成 25 年 10 月 18 日に県立病院事業経営評価委員会を開催し、平成 24 年度の取組状況等についてご審議いただいた結果、「概ね妥当」との評価をいただいた。なお、当該委員会からの主な助言については、以下のとおり。

【主な助言項目】

項目	内容
医療機能の維持・確保について	会津医療センターの開所に伴い、県立病院は政策医療を担う３病院（大野病院を除く）の体制となっており、矢吹においては医療観察法に基づく指定入院医療機関の検討や、宮下においてはへき地医療を維持するための施設の耐震化など、必要とされる医療機能の維持・確保に努める必要がある。
人材育成について	医療の質の向上及び安全の確保を図るため、実効性のある院内研修プログラムの実施及び院外研修・学会等への参加機会を確保するとともに、職員の資格取得支援を行うなど、引き続き組織的・計画的な人材育成に取り組んでいく必要がある。
地域との連携について	地域連携を推進するにあたっては、医療関係者等との間だけで考えるのではなく、地域住民も巻き込んで連携を推進していく必要がある。
効果的な事業ＰＲと患者の視点に立った病院づくりについて	県立病院の取組を県民に分かりやすく伝えるための工夫をするなど、効果的な事業ＰＲに努める必要がある。また、患者満足度調査の内容を適宜見直ししながら、患者ニーズの的確な把握に努めるとともに、ニーズに応じた改善を行い患者満足度を高めるなど、患者の視点に立った病院づくりに取り組んでいく必要がある。

共通目標指標

経常収支比率

経常収支比率 = (医業収益 + 医業外収益) / (医業費用 + 医業外費用) * 100

H21実績 87.3%	H22実績 88.7%	H23実績 92.6%	H24実績 94.1%	H25目標 100%以上	H25実績 98.4%
----------------	----------------	----------------	----------------	-----------------	----------------

H23～H25 実績は大野病院除く。

目標 2	未収金の発生防止と早期回収の強化	目標値達成状況		取組状況																																																																								
		【 ５ 】	目標値を上回った	【 ５ 】	極めて積極的に行われている																																																																							
<p>[医療相談の実施]</p> <p>新たな未収金発生の抑制を図るため、高額療養費制度などの周知徹底や医療費に関する面談を行うなど、全職員の共通認識の下で医療相談を積極的に実施する。</p> <p>[未収金マニュアルの活用]</p> <p>喫緊の課題である未収金残高の削減に向けて、県立病院医業未収金マニュアルを活用し、新たな未収金発生を防止するとともに、現存する未収金の早期回収に努める。</p> <p>[効果的な未収金対策の推進]</p> <p>未収金回収については、電話や文書での督促、自宅訪問などを継続的な実施により、早期回収に向けた効果的な対策を推進する。</p>		《平成 25 年度の取組状況》																																																																										
		1 医療相談の実施																																																																										
		高額療養費限度額適用制度の活用を推進するとともに、医療費の支払いに関する個別の相談を実施した。																																																																										
		2 未収金マニュアルの活用																																																																										
		県立病院事業未収金マニュアル及び福島県立病院医業未収金支払督促事務取扱指針に基づく処理（電話や文書による督促、自宅訪問、法的手段など）を徹底し、未収金の発生防止及び収納促進に取り組んだ。																																																																										
		【過年度医業未収金残高状況】（単位：件・千円）																																																																										
		<table><tr><th rowspan="2">病院名</th><th colspan="2">H 25</th><th colspan="2">H 24</th><th colspan="2">H 23</th></tr><tr><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th><th>件数</th><th>金額</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>129</td><td>4,899</td><td>120</td><td>2,167</td><td>73</td><td>1,355</td></tr><tr><td>旧喜多方病院</td><td>-</td><td>-</td><td>9</td><td>74</td><td>14</td><td>162</td></tr><tr><td>旧会津総合病院</td><td>926</td><td>37,840</td><td>968</td><td>38,422</td><td>1,218</td><td>46,003</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>38</td><td>547</td><td>39</td><td>446</td><td>30</td><td>1,010</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>620</td><td>10,776</td><td>600</td><td>11,949</td><td>593</td><td>12,108</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>325</td><td>9,679</td><td>-</td><td>12,260</td><td>-</td><td>12,260</td></tr><tr><td>病院局</td><td>52</td><td>5,610</td><td>37</td><td>5,808</td><td>43</td><td>6,495</td></tr><tr><td>合 計</td><td>2,090</td><td>69,351</td><td>1,773</td><td>71,126</td><td>1,971</td><td>79,393</td></tr></table>						病院名	H 25		H 24		H 23		件数	金額	件数	金額	件数	金額	矢吹病院	129	4,899	120	2,167	73	1,355	旧喜多方病院	-	-	9	74	14	162	旧会津総合病院	926	37,840	968	38,422	1,218	46,003	宮下病院	38	547	39	446	30	1,010	南会津病院	620	10,776	600	11,949	593	12,108	大野病院	325	9,679	-	12,260	-	12,260	病院局	52	5,610	37	5,808	43	6,495	合 計	2,090	69,351	1,773	71,126	1,971	79,393
		病院名	H 25		H 24		H 23																																																																					
			件数	金額	件数	金額	件数	金額																																																																				
		矢吹病院	129	4,899	120	2,167	73	1,355																																																																				
旧喜多方病院	-	-	9	74	14	162																																																																						
旧会津総合病院	926	37,840	968	38,422	1,218	46,003																																																																						
宮下病院	38	547	39	446	30	1,010																																																																						
南会津病院	620	10,776	600	11,949	593	12,108																																																																						
大野病院	325	9,679	-	12,260	-	12,260																																																																						
病院局	52	5,610	37	5,808	43	6,495																																																																						
合 計	2,090	69,351	1,773	71,126	1,971	79,393																																																																						
各年度 3 月 31 日現在 病院局は廃止病院分																																																																												
3 効果的な未収金対策の推進																																																																												
未収金担当者等会議を開催し、未収金の効率的な回収方法等について意見交換を行い、情報の共有化を図った。																																																																												
回収が困難な債権については、弁護士事務所に回収業務を委託する予定。																																																																												
		共通目標指標																																																																										
		過年度未収金残高																																																																										
		<div><div>H21実績 8 8 百万円</div><div>H22実績 8 2 百万円</div><div>H23実績 7 9 百万円</div><div>H24実績 7 1 百万円</div><div>H25目標 7 2 百万円以下</div><div>H25実績 6 9 百万円</div></div>																																																																										

目標 3	費用の見直し	目標値達成状況		取組状況																			
		【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 4 】	積極的に行われている																		
<p>[人件費の抑制]</p> <p>更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。</p> <p>[診療材料・医薬品の費用削減]</p> <p>更なる材料費の削減を図るため、平成 20 年度に導入した新型 S P D により、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。</p> <p>[日常的な経費節減]</p> <p>日常的な経費の削減を図るため、光熱水費の更なる節減や価格変動に応じた契約単価の見直しによる燃料費の削減、委託業務における業務内容の見直しなどを行う。</p>		《平成 25 年度の取組状況》																					
		1 人件費の抑制																					
		旧会津総合病院と喜多方病院の廃止に伴う職員数の減により、給与費は前年度と比較し、35.2 億円の減少となった。																					
		<table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>給与費</td><td>3,979,345 千円</td><td>7,508,222 千円</td><td>7,350,206 千円</td></tr><tr><td>うち退職手当除く</td><td>3,629,350 千円</td><td>6,242,376 千円</td><td>6,578,029 千円</td></tr><tr><td>正規職員数</td><td>371 人</td><td>667 人</td><td>697 人</td></tr></table>		項目	H 25	H 24	H 23	給与費	3,979,345 千円	7,508,222 千円	7,350,206 千円	うち退職手当除く	3,629,350 千円	6,242,376 千円	6,578,029 千円	正規職員数	371 人	667 人	697 人	本局職員含む、準備室教員を除く。			
		項目	H 25	H 24	H 23																		
		給与費	3,979,345 千円	7,508,222 千円	7,350,206 千円																		
		うち退職手当除く	3,629,350 千円	6,242,376 千円	6,578,029 千円																		
		正規職員数	371 人	667 人	697 人																		
		2 診療材料・医薬品の費用削減																					
		医薬品・診療材料の購入費は、大きな比重を占めていることから、S P D 導入（医薬品・診療材料の価格交渉や一括発注、診療材料の供給・搬送、在庫管理を委託）により、適正な在庫管理や採用品目の見直しに努めるなど、業務の効率化及び経費の削減に取り組んだ。																					
<table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>材料費</td><td>744,441 千円</td><td>1,857,892 千円</td><td>1,611,545 千円</td></tr><tr><td>うち薬品費</td><td>388,800 千円</td><td>1,043,323 千円</td><td>935,989 千円</td></tr><tr><td>うち診療材料費</td><td>241,824 千円</td><td>729,791 千円</td><td>586,813 千円</td></tr><tr><td>S P D 効果</td><td>5,794 千円</td><td>18,118 千円</td><td>26,251 千円</td></tr></table>		項目	H 25	H 24	H 23	材料費	744,441 千円	1,857,892 千円	1,611,545 千円	うち薬品費	388,800 千円	1,043,323 千円	935,989 千円	うち診療材料費	241,824 千円	729,791 千円	586,813 千円	S P D 効果	5,794 千円	18,118 千円	26,251 千円	* S P D 効果 = 購入額削減額 - 委託額	
項目	H 25	H 24	H 23																				
材料費	744,441 千円	1,857,892 千円	1,611,545 千円																				
うち薬品費	388,800 千円	1,043,323 千円	935,989 千円																				
うち診療材料費	241,824 千円	729,791 千円	586,813 千円																				
S P D 効果	5,794 千円	18,118 千円	26,251 千円																				
3 日常的な経費削減																							
委託料については、医療機器の保守料など仕様の見直しを行い委託額の縮減に取り組んだ。																							
<table><tr><td>項目</td><td>H 25</td><td>H 24</td><td>H 23</td></tr><tr><td>経費</td><td>1,142,492 千円</td><td>1,995,751 千円</td><td>1,884,796 千円</td></tr><tr><td>うち消耗品費</td><td>27,289 千円</td><td>44,156 千円</td><td>48,297 千円</td></tr><tr><td>うち光熱水費</td><td>68,977 千円</td><td>129,003 千円</td><td>120,846 千円</td></tr><tr><td>うち委託料</td><td>608,018 千円</td><td>847,441 千円</td><td>814,509 千円</td></tr></table>		項目	H 25	H 24	H 23	経費	1,142,492 千円	1,995,751 千円	1,884,796 千円	うち消耗品費	27,289 千円	44,156 千円	48,297 千円	うち光熱水費	68,977 千円	129,003 千円	120,846 千円	うち委託料	608,018 千円	847,441 千円	814,509 千円		
項目	H 25	H 24	H 23																				
経費	1,142,492 千円	1,995,751 千円	1,884,796 千円																				
うち消耗品費	27,289 千円	44,156 千円	48,297 千円																				
うち光熱水費	68,977 千円	129,003 千円	120,846 千円																				
うち委託料	608,018 千円	847,441 千円	814,509 千円																				
共通目標指標																							
職員給与比率（一般病院）		職員給与比率 = 職員給与費 / 医業収益 * 1 0 0																					
<div><div>H21実績 1 0 6 . 9 %</div><div>H22実績 9 8 . 4 %</div><div>H23実績 9 2 . 1 %</div><div>H24実績 8 2 . 8 %</div><div>H25目標 8 3 %以下</div><div>H25実績 9 3 . 6 %</div></div>																							
H23 実績、H24 実績は大野病院を除く。																							

目標１：収益の確保（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																
1	共通取組	常勤医師の確保	関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保することで、安定的な診療体制の確立を図る。	常勤医師（平成 26 年 3 月 1 日現在） <table><tr><th>病院名</th><th>医師数</th><th>内訳</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>7 人</td><td>精神科 6、内科 1</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>3 人</td><td>内科 3</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>11 人</td><td>内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、麻酔科 1</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>0 人</td><td>休止中</td></tr></table>	病院名	医師数	内訳	矢吹病院	7 人	精神科 6、内科 1	宮下病院	3 人	内科 3	南会津病院	11 人	内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、麻酔科 1	大野病院	0 人	休止中	4 (4)	
病院名	医師数	内訳																			
矢吹病院	7 人	精神科 6、内科 1																			
宮下病院	3 人	内科 3																			
南会津病院	11 人	内科 5、外科 2、整形外科 2、小児科 1、麻酔科 1																			
大野病院	0 人	休止中																			
2	矢吹病院	看護補助加算 1 の算定	看護補助加算 1 の算定を開始し、より高い入院基本料等加算の取得により、収益増を図る。	平成 20 年 11 月より「看護補助加算 2 」から「看護補助加算 1 」に上位ランクの届出を行い算定している。	5 (5)																
3		外来患者に対する精神科作業療法の実施	精神科作業療法については、入院患者を対象に実施しているが、今後、外来患者のニーズを把握し、外来部門と O T 部門の連携方法等の具体策について検討する。	平成 22 年 4 月から開始した外来の精神科作業療法について、引き続き実施した。 <table><tr><th>項目</th><th>H 25</th><th>H 24</th><th>H 23</th></tr><tr><td>外来の精神科作業療法患者数</td><td>446 人</td><td>451 人</td><td>381 人</td></tr></table>	項目	H 25	H 24	H 23	外来の精神科作業療法患者数	446 人	451 人	381 人	4 (5)								
項目	H 25	H 24	H 23																		
外来の精神科作業療法患者数	446 人	451 人	381 人																		
4	宮下病院	診療科目の充実（再掲）	診療科目の充実を図るなど、県立医科大学や会津総合病院等との連携を強化しながら、県内で高齢化率が一番高い地域の特性に的確に対応した医療を提供。	県立医科大学等との連携を強化しながら、高齢者に多い疾患に対応した医療の提供に努めた。〔再掲 P 6〕	4 (4)																
5		訪問診療の充実による外来患者の確保	訪問診療等の充実により、患者サービスの向上や外来患者の確保を図る。	訪問診療や訪問看護、職員が地域に出向いて行う活動（医療講演会や出前講座等）を積極的に展開し、外来患者数の維持・確保に努めた。 <table><tr><th>項目</th><th>H 25</th><th>H 24</th><th>H 23</th></tr><tr><td>訪問診療の件数</td><td>84 件</td><td>121 件</td><td>131 件</td></tr><tr><td>外来の延患者数</td><td>15,013 人</td><td>16,107 人</td><td>17,817 人</td></tr><tr><td>外来の新患者数</td><td>1,077 人</td><td>1,298 人</td><td>1,260 人</td></tr></table>	項目	H 25	H 24	H 23	訪問診療の件数	84 件	121 件	131 件	外来の延患者数	15,013 人	16,107 人	17,817 人	外来の新患者数	1,077 人	1,298 人	1,260 人	3 (4)
項目	H 25	H 24	H 23																		
訪問診療の件数	84 件	121 件	131 件																		
外来の延患者数	15,013 人	16,107 人	17,817 人																		
外来の新患者数	1,077 人	1,298 人	1,260 人																		
6		無料送迎バスの効率的な運行（再掲）	外来患者の利便性向上や収益増に向けて、無料送迎バスの効率的な運行を図る。	無料送迎バスを運行し、患者さんの通院の利便性の向上を図った。〔再掲 P 15〕	5 (4)																
7	南会津病院	D P C 病院への移行による収益の確保	D P C（包括支払制度）病院への移行に向けて、引き続き D P C 準備病院としてデータの収集等を行う。	必ずしも急性期患者のみを対象とするわけではないという当院の性格上、当面 D P C 対象病院となることは収益の面からみても不適当であると判断し、平成 22 年度に準備病院を辞退した。	- (-)																
8		透析器機の増設による透析機能の強化（再掲）	透析患者の利便性向上や透析患者の増に向けて、透析設備の増設を図る。	南会津地域の維持透析の充実を図るため、透析機器を 7 台増設して、計 19 台とした。〔再掲 P14〕	4 (3)																

行動計画取組状況（基本方針２：収益確保と費用削減による健全な病院経営（健全な病院経営の視点））

9	大野病院	薬剤管理指導の効率的な実施	収益の確保を図るため、薬剤管理指導を効率的に実施する。	-	- (-)
10		亜急性期入院医療管理料の導入	新たな収入の確保を図るため、急性期治療を経過した患者に対し、在宅復帰支援に向けた亜急性期病床を設置する。	-	- (-)
11	病院局	県立病院収益確保プロジェクトの実施	診療報酬制度改定やD P C 導入への対応、地域連携の強化による患者確保などに向けた対策を講じるため、経営改善に向けて組織されている病院経営検討会に、実務担当者レベルのメンバーを加え発展させ、定期的に部門横断的な検討を行い、具体的に取り組む。	本プランの後継計画である第二次改革プランの策定に向けて、新県立病院改革プラン検討委員会の開催や病院長ヒアリングを実施するなど、各病院との連携を密にしながら、各県立病院のあり方や経営戦略等について検討を行った。(平成26年3月24日第二次改革プラン策定済み)	4 (3)
12		未利用財産の売却	病院事業財産を活用することにより収益確保を図るため、公舎跡地等未利用財産の売却を進める。	未利用財産の購入希望者を募集したものの、売却には至らなかった。	3 (3)
13		外部意見による経営評価	県立病院事業の経営改善に向けた取組状況について、有識者で構成される第三者機関である県立病院経営評価委員会の評価を受けるなど、多様な意見を取り入れながら一層の経営健全化を図る。	平成25年10月18日に県立病院事業経営評価委員会を開催し、平成24年度の取組状況等についてご審議いただいた結果、「概ね妥当」との評価をいただいた。〔再掲P17〕	4 (4)

目標 2：未収金の発生防止と早期回収の強化（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価												
14	共通取組	未収金の発生防止と早期回収の強化	医療相談室等と連携しながら、未収金となるおそれのある患者に早期に接触し未収金の発生を防止する。 未収金については、定期的に文書による納付依頼や督促、電話や訪問による納付交渉等を行い早期回収に努める。	各病院の取組状況 <table><tr><th>病院名</th><th>実施状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>未収金対策として、窓口との連携や訪問督促（5 回 23 件実施）を強化した結果、以下のとおり回収することができた。 平成 19 年度分 73,370 円全額回収、 平成 20 年度分 166,080 円のうち 24,840 円を回収 平成 22 年度分 103,860 円のうち 39,410 円回収 平成 23 年度分 1,822,120 円のうち 518,780 円</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>医療費が高額となる見込みの患者については、医療相談員が高額医療費事前申請制度等の説明を行うなど、未収金の発生防止に努めている。 医療圏外患者が増えるゴールデンウィークと年末年始については、委託職員による窓口会計業務を行い、出来る限り受診当日の収納に努めた。 納入期限後原則 2 ヶ月以内に督促状を送付し、それでも納付されない場合は催告状（年 3 回）送付や出張徴収（年 2 回）を実施した。 死亡した患者の納入義務者が生活保護のため、631 千円の使用料等を免除した。</td></tr><tr><td>大野病院</td><td>-</td></tr><tr><td>本局</td><td>平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、会津総合病院や喜多方病院など廃止した県立病院の未収金徴収を行っている。</td></tr></table>	病院名	実施状況	矢吹病院	未収金対策として、窓口との連携や訪問督促（5 回 23 件実施）を強化した結果、以下のとおり回収することができた。 平成 19 年度分 73,370 円全額回収、 平成 20 年度分 166,080 円のうち 24,840 円を回収 平成 22 年度分 103,860 円のうち 39,410 円回収 平成 23 年度分 1,822,120 円のうち 518,780 円	宮下病院	電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。	南会津病院	医療費が高額となる見込みの患者については、医療相談員が高額医療費事前申請制度等の説明を行うなど、未収金の発生防止に努めている。 医療圏外患者が増えるゴールデンウィークと年末年始については、委託職員による窓口会計業務を行い、出来る限り受診当日の収納に努めた。 納入期限後原則 2 ヶ月以内に督促状を送付し、それでも納付されない場合は催告状（年 3 回）送付や出張徴収（年 2 回）を実施した。 死亡した患者の納入義務者が生活保護のため、631 千円の使用料等を免除した。	大野病院	-	本局	平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、会津総合病院や喜多方病院など廃止した県立病院の未収金徴収を行っている。	5 (4)
病院名	実施状況																
矢吹病院	未収金対策として、窓口との連携や訪問督促（5 回 23 件実施）を強化した結果、以下のとおり回収することができた。 平成 19 年度分 73,370 円全額回収、 平成 20 年度分 166,080 円のうち 24,840 円を回収 平成 22 年度分 103,860 円のうち 39,410 円回収 平成 23 年度分 1,822,120 円のうち 518,780 円																
宮下病院	電話による督促、督促状・催告状の送付などを実施した。																
南会津病院	医療費が高額となる見込みの患者については、医療相談員が高額医療費事前申請制度等の説明を行うなど、未収金の発生防止に努めている。 医療圏外患者が増えるゴールデンウィークと年末年始については、委託職員による窓口会計業務を行い、出来る限り受診当日の収納に努めた。 納入期限後原則 2 ヶ月以内に督促状を送付し、それでも納付されない場合は催告状（年 3 回）送付や出張徴収（年 2 回）を実施した。 死亡した患者の納入義務者が生活保護のため、631 千円の使用料等を免除した。																
大野病院	-																
本局	平成 19 年度より未収金徴収嘱託員 1 名を配置し、会津総合病院や喜多方病院など廃止した県立病院の未収金徴収を行っている。																
15	病院局	未収金担当者会議の開催	実務者レベルの会議を定期的に開催し、実効性のある効果的な滞納防止策や回収策を検討し、各病院の共通的な取組みとして実施する。	未収金担当者等会議を開催し、未収金の効率的な回収方法等について意見交換を行い、情報の共有化を図った。〔再掲 P18〕	4 (4)												

目標３：費用の見直し（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
16	共通取組	業務委託内容の見直しによる委託費削減	委託業務の契約内容等についてゼロベースで見直しを行うとともに、入札方式や複数年契約の検討、医療機器の調達における保守管理を考慮した契約実施などにより、委託費用の削減に取り組む。	各病院の取組状況	3 (3)
病院名				実施状況	
矢吹病院				入札の適正執行やシルバー人材センターの活用など、経費の節減に努めた。	
宮下病院				委託仕様の見直しを行うなど、経費の節減に努めた。	
南会津病院				機器更新時に保証期間内の保守契約を見合わせるなど、経費の節減に努めた。	
17		消耗品費や光熱水費等の削減	消耗品や光熱水費等の経費削減を図るため、職員の意識改革を進める。	各病院の取組状況	5 (5)
病院名				実施状況	
矢吹病院				電気のデマンドコントロールを活用し、最大使用電力量を低減することで、電力基本料の低減に努めた。 水道の水圧調整を行うなど節水を推進した。	
宮下病院				電源の ONOFF をこまめに行い、省エネ・経費削減に努めた。	
南会津病院				空調機器の設定温度を調整するなど、省エネ・経費削減に努めた。	
18		新型 S P D による医療費等の削減	材料費の削減を図るため、平成 20 年度に導入した新型 S P D により、医薬品・診療材料費の共同購入や適正管理を徹底する。	各病院の取組状況	4 (4)
病院名				実施状況	
矢吹病院				薬品費については、薬事委員会において、使用薬品数の削減、ジェネリックへの変更の可否について検討を行った。	
宮下病院				後発医薬品への切り替えを行った。(H25 後発医薬品採用率:22.2%) 期限切れの近い薬品を院内に周知し、その使用を促進した。 医療従事者のコスト意識の醸成や、安価な診療材料への切り替えを行った。	
南会津病院				薬品、診療材料ともに、S P D による価格交渉(薬品 2 回、診療材料 1 回)を行い、 廉価購入と在庫の減少に努めた。 毎月薬事委員会を開催し同種同効薬の見直しや、不動在庫の提示による利用促進に努めた。	
19	宮下病院 南会津病院	病床削減の実施	診療圏の人口動向や今後の患者数見込み等を考慮し、病床数の削減を実施する。	平成 21 年 4 月に病床数を 55 床から 32 床へ削減した。(宮下病院) 平成 21 年 4 月に病床数を 150 床から 100 床へ、平成 25 年 4 月に 100 床から 98 床へ削減した。 (南会津病院)	- (-)
20	病院局	総人件費の抑制	更なる総人件費の抑制を図るため、給与費の抑制や、病棟・病床数の見直し、業務の効率化による職員配置の適正化、委託の推進などに取り組む。	旧会津総合病院と喜多方病院の廃止に伴う職員数の減により、給与費は前年度と比較し、35.2 億円の減少となった。〔再掲 P19〕	4 (4)

基本方針３：医療提供体制の充実強化（病院の体制整備の視点）

【改革プラン方針】 地域住民に安全で安心な医療を提供し、信頼される病院を目指していくため、これからの県立病院を担う専門的な知識を持った医師の確保・育成、診療体制の充実を図るとともに、医療安全対策の一層の強化を図る。		平成 25 年度取組状況及び自己評価			
目標 1	診療体制及び経営基盤の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 4 】	目標値を達成できた	【 4 】	積極的に行われている
<p>[医師確保等の充実強化]</p> <p>県立医科大学等との連携や医師紹介事業者の活用、公募による医師確保策の充実強化を図るとともに、医師の給与の見直しや勤務環境の改善などの処遇改善を行い、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。</p> <p>また、医師確保緊急対策プログラム（ ）に基づき、医師確保に取り組む。</p> <p>県の地域医療対策協議会で検討され、平成 21 年度から実施</p> <p>[医療の質と調和した経営改善]</p> <p>「医療の質」、「経営の質」の両面においてバランスがとれた病院経営を進めるため、5 つの視点（患者さんの視点・健全な病院経営の視点・病院の体制整備の視点・人材育成の視点・地域連携の視点）に沿った基本方針に基づく経営改革を実施する。</p>		平成 25 年度の取組状況			
		1 医師確保等の充実強化について			
		安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。			
		【常勤医師数】（単位：人）			
		病院名	H 25	H 24	
		矢吹病院	7	6	
		宮下病院	3	5	
		南会津病院	11	12	
		大野病院	0	0	
		合計	21	23	
各年度 3 月 1 日現在					
各病院の医師より、適宜意見を聴取するなど、医師が安心して働ける勤務環境の整備や診療機能の充実などに努めた。なお、平成 25 年度においては、12 月に宮下病院の医師と病院事業管理者との意見交換を実施している。					
2 医療の質と調和した経営改善について					
今後の病院運営における院長の方針や改革プランの取組状況等について、各病院長及び事務長等と意見交換を行った。（本局）					
共通目標指標					
常勤医師数					
H 21実績 5 7 人					
H 22実績 6 4 人					
H 23実績 6 1 人					
H 24実績 6 2 人					
H 25目標 2 3 人					
H 25実績 2 1 人					
H23 実績は大野病院除く					

目標 2	医療安全対策の強化	目標値達成状況評価		取組状況評価			
		【 4 】	目標値を達成できた	【 4 】	積極的に行われている		
<div>[不断の意識啓発]</div> <div>医療の安全性を高め、患者さんにより信頼される病院となるため、職員全員の医療事故防止に向けた一層の意識啓発と病院全体の危機管理を不断に取り組む。</div> <div>[組織的な体制整備]</div> <div>医療安全を総合的に推進する医療安全担当の配置、医療事故防止マニュアルの不断の見直し、医療事故防止対策委員会で医療事故の発生防止対策の検討、医療事故防止に関する研修会の定期的な開催など、医療安全対策に病院全体で組織的に取り組み、安全な医療の確保を図る。</div> <div>[マニュアルの周知徹底]</div> <div>危機発生時に迅速かつ的確な対応が図られるよう、普段から研修会等において、医療事故防止マニュアルの周知徹底に努める。</div>		平成 25 年度の取組状況					
		1 医療安全対策の推進について					
		医療安全管理委員会を毎月 1 回開催し、医療安全管理対策の検討を行った。 院内感染対策委員会を毎月 1 回開催し、院内感染対策を行った。 医療安全、院内感染に関する研修会を開催した。 各病院の医療安全担当責任者で構成される「医療安全対策プロジェクトチーム」で、リスク情報収集や調査分析を行い、医療事故防止対策の強化に取り組んだ。（本局）					
		【医療安全研修会参加率】					
			H25	H24	H23		
		矢吹病院	100%	100%	100%		
		宮下病院	56%	50%	60%		
		南会津病院	88.7%	92.4%	82.9%		
		共通目標指標					
		医療安全研修参加率					
		H21実績 76.1%	H22実績 66.6%	H23実績 64.4%	H24実績 59.6%	H25目標 90%以上	H25実績 81.6%

目標１：診療体制及び経営基盤の強化（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
1	共通取組	常勤医師の確保（再掲）	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等と連携しながら、常勤医師を確保する。	安定的な診療体制の確立を図るため、関係機関等との連携の下、常勤医師の確保に努めた。〔再掲 P 24〕	4 (4)
2	宮下病院	臨床研修医の受入	県立医科大学や自治医科大学等との連携の下、臨床研修病院として研修医の受入を行う。	卒後臨床研修（自治医科大学卒・地域医療）1 名を受け入れた。	5 (5)
3	宮下病院	家庭医プログラムに基づく実習生の受入	県立医科大学の家庭医プログラムに基づき、ホームステイにより実習生の受入を行う。	平成 21 年度以降、実習生の受入実績がない。	3 (3)
4	宮下病院	へき地医療体験研修等の受入	自治医科大学福島県人会のへき地医療体験研修を積極的に支援することで、本県出身の医学部生への将来的なへき地医療従事の動機付けとなることを目指す。	会津・南会津保健福祉事務所の主催する地域医療体験研修のプログラムに参加し、10 名を受け入れた。 獨協医科大学学生によるへき地医療体験研修のため 1 名を受け入れた。 〔今後の取組〕 宮下病院等後援会からの支援や地域住民の協力を得て、県立医科大学との連携の下、臨床研修協力施設として、臨床研修医や家庭医研修プログラムに基づく研修生、地域医療に関心を持つ医学生を積極的に受入れ、地域医療に対する動機付けを行っていきたい。	5 (5)
5	南会津病院	研修病院としての役割	自治医科大学の実施する院外 B S L 研修の受入を行う。	医師の卒後臨床研修及び医学部学生の研修は次のとおり受け入れたほか、会津・南会津保健福祉事務所の主催する地域医療体験研修のプログラムにも参加した。 ・医師の卒後臨床研修（自治医科大学卒・地域医療）：1 名（2 月、1 か月間） ・地域医療実習（自治医科大学・5 年生対象）：2 名（9 月、1 週間） ・夏期研修（自治医科大学・1 ～ 4 年生対象）：11 名（8 月、3 日間）	3 (3)
6	病院局	医科大学との連携による医師確保の強化	県立医科大学や自治医科大学等との連携強化、近隣県や東京都内の医科大学への医師派遣依頼などにより、医師確保対策の強化を図る。また、県の医師確保緊急対策プログラムに基づき、医師確保を図る。	県立医科大学や自治医科大学等へ医師の派遣要請を行った。 医師確保等推進事業（医師紹介業者及び医師求人サイトの活用等）やドクターバンク事業（今すぐから将来まで県立病院へ勤務する医師を全国的に募集）を展開し、医師確保に努めた。	4 (4)
7		公募による医師確保	医師紹介事業者の活用、インターネットを始め様々な広報媒体の活用、本県に興味を持っている県外在住者への P R、公募による医師確保対策の強化を図る。	ホームページや医師紹介事業者の活用等、様々な広報媒体の活用を行い、公募による医師確保対策の強化を図った。	4 (5)
8		医師の処遇改善	県立病院に勤務する医師について、給与の見直し、医療事務作業補助者の配置などによる勤務負担の軽減、研修制度の充実など処遇改善を図り、医師にとって魅力ある職場づくりを行う。	各病院の医師より適宜意見を徴するなど、現場医師の意見を把握しながら、顔の見える関係の構築を図り、魅力ある病院づくりを行った。	4 (4)
9		中長期的な医師確保	将来に向けた医師の確保を図るため、医学部生への修学資金の貸与、臨床研修医の受入れなどを行う。	平成 22 年度から保健福祉部の修学資金制度と統合し、「へき地医療等医師確保修学資金」を創設した。 なお、従来貸与を受けていた医学部学生については、これまで同様貸与を継続している。	4 (4)
10		目標管理の実施	5 つの視点に沿った基本方針を踏まえ、良質な医療の提供と健全な病院経営の実現に向けた取組みを実施していくとともに、定期的に取組みの進捗状況や課題の検討などを行う。	平成 21 年 5 月に策定した改革プランの進捗管理を行うために、県立病院事業経営評価委員会委員による助言を得ながら評価・検討を行った。	4 (4)

目標２：医療安全対策の強化（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																				
11	共通取組	専任の医療安全担当による管理体制の強化や研修会の開催等による安全対策の強化	専任の医療安全担当を配置する。 医療安全対策委員会等の活動を強化して、医療事故防止や院内感染防止に関する情報の収集やアクシデント・インシデント事例の検証等を行う。 定期的に医療事故防止のための研修会を開催し、マニュアルの見直しや改善事項等について職員への指示を徹底するなど、医療の安全確保に総合的かつ組織的に取り組む。	取組状況 <table><tr><th>病院名</th><th>内容</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>医療安全研修会の参加率は100%となっている。（欠席者には伝達研修を実施）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>各種研修会を開催した。 【主な研修会】<table><tr><th>研修会名</th><th>開催日</th></tr><tr><td>院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）</td><td>7月4日</td></tr><tr><td>インシデントから学ぶ医療安全研修会</td><td>10月16日</td></tr><tr><td>院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）</td><td>11月15日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医療事故）</td><td>2月7日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医薬品の安全使用）</td><td>3月12日</td></tr></table>転倒・転落防止対策「院内パトロール」を実施した。</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>研修担当委員会の主催により、医療安全、感染対策に関する研修会を実施した。 特に、「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170名の参加があった。 欠席者に対しては研修資料を配付しフォローアップに取り組んだ。</td></tr></table>	病院名	内容	矢吹病院	医療安全研修会の参加率は100%となっている。（欠席者には伝達研修を実施）	宮下病院	各種研修会を開催した。 【主な研修会】 <table><tr><th>研修会名</th><th>開催日</th></tr><tr><td>院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）</td><td>7月4日</td></tr><tr><td>インシデントから学ぶ医療安全研修会</td><td>10月16日</td></tr><tr><td>院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）</td><td>11月15日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医療事故）</td><td>2月7日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医薬品の安全使用）</td><td>3月12日</td></tr></table> 転倒・転落防止対策「院内パトロール」を実施した。	研修会名	開催日	院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）	7月4日	インシデントから学ぶ医療安全研修会	10月16日	院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）	11月15日	医療安全研修会（医療事故）	2月7日	医療安全研修会（医薬品の安全使用）	3月12日	南会津病院	研修担当委員会の主催により、医療安全、感染対策に関する研修会を実施した。 特に、「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170名の参加があった。 欠席者に対しては研修資料を配付しフォローアップに取り組んだ。	4 （4）
病院名	内容																								
矢吹病院	医療安全研修会の参加率は100%となっている。（欠席者には伝達研修を実施）																								
宮下病院	各種研修会を開催した。 【主な研修会】 <table><tr><th>研修会名</th><th>開催日</th></tr><tr><td>院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）</td><td>7月4日</td></tr><tr><td>インシデントから学ぶ医療安全研修会</td><td>10月16日</td></tr><tr><td>院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）</td><td>11月15日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医療事故）</td><td>2月7日</td></tr><tr><td>医療安全研修会（医薬品の安全使用）</td><td>3月12日</td></tr></table> 転倒・転落防止対策「院内パトロール」を実施した。	研修会名	開催日	院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）	7月4日	インシデントから学ぶ医療安全研修会	10月16日	院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）	11月15日	医療安全研修会（医療事故）	2月7日	医療安全研修会（医薬品の安全使用）	3月12日												
研修会名	開催日																								
院内感染対策研修会（隔離予防策と手洗い）	7月4日																								
インシデントから学ぶ医療安全研修会	10月16日																								
院内感染対策研修会（インフルエンザの基礎とワクチン）	11月15日																								
医療安全研修会（医療事故）	2月7日																								
医療安全研修会（医薬品の安全使用）	3月12日																								
南会津病院	研修担当委員会の主催により、医療安全、感染対策に関する研修会を実施した。 特に、「グリッターバグの手洗い研修」は、委託職員も含め170名の参加があった。 欠席者に対しては研修資料を配付しフォローアップに取り組んだ。																								
12	病院局	医療安全対策プロジェクトチームの開催	各病院の医療安全担当責任者で構成される医療安全対策プロジェクトチームを定期的に開催し、一層の安全な医療の提供を図るため、リスク情報収集や調査分析を行うなど、医療事故防止対策の強化に組織的に取り組む。	各病院の医療安全担当で構成する県立病院医療安全対策プロジェクトチーム会議を2回開催し、県立病院における医療安全に関する課題の洗い出し・情報共有や具体的な方策の検討などを行った。 （検討内容） ・各病院のリスクマネージャーやICラウンドメンバーによる各病院への院内ラウンドの実施 ・病院毎のヒヤリハット事例の集約及び各病院へ周知	4 （4）																				

基本方針４：職員の資質向上と人材育成（人材育成の視点）

【改革プラン方針】 地域住民に良質な医療サービスを提供するという基本姿勢に立ち、部門間の連携や積極的な対話をすすめる、コミュニケーション能力の向上を図りながら、職員の経営参加に対する意識の向上、職場の活性化、組織風土の改善を図る。 また、院内外の人的資源を有効に活用しながら、次世代を担う職員や核となるリーダーの育成、職員の専門性向上への支援を実施する。		平成 25 年度取組状況及び自己評価			
目標 1	人材の育成と確保	目標値達成状況		取組状況	
		【 5 】	目標値を上回った	【 5 】	極めて積極的に行われている
<p>〔人材の積極的活用〕</p> <p>組織の活性化や職員のモチベーションの向上を図るため、人的資源としての院内の優秀な人材の積極的な活用を図る。</p> <p>〔リーダー育成〕</p> <p>地域住民から信頼される病院となるため、職員の育成を図るとともに、核となるリーダーの育成に努める。</p>		平成 25 年度の取組状況			
		1 人的資源の積極的な活用とリーダーの育成について			
		医療スタッフの専門性向上への支援			
		資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。			
		また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。			
		【認定看護師の取得状況】(平成 26 年 6 月 24 日現在)			
		認定分野	取得	日本看護協会にて研修中	
		感染管理	2 人 (H22、H26 取得)	1 人	
		糖尿病看護	0 人	1 人	
		精神科看護	2 人 (H26 取得)	0 人	
		WOC 看護(皮膚・排泄ケア)	1 人 (H26 取得)	0 人	
		計	5 人	2 人	
		【平成 25 年度資格取得者支援者数】			
		矢吹病院	認定看護師	3 人	
			第一種衛生管理者	1 人	
		宮下病院	看護管理者研修(ファーストレベル研修)	1 人	
			甲種防火管理新規講習	1 人	
		南会津病院	認定看護師	3 人	
			看護管理者研修(ファーストレベル研修)	1 人	
			看護管理者研修(セカンドレベル研修)	1 人	
			計	11 人	

〔資質向上の環境づくり〕
各種研修会や学会等への参加機会の拡充や教育体制の充実などにより、全体の水準向上を図るとともに、資質向上に取り組める環境づくりに努める。


2 資質向上の環境づくりについて
医療情勢を踏まえた課題検討のため看護管理検討会、看護部教育企画委員会等を開催した。
看護研究を通じて自己研鑽に取り組み、看護の質の向上を図るため、「県立病院看護部看護研究発表会」を開催した。

病院名	演題
矢吹病院	精神障がい者当事者が認識する地域生活維持のために行っている行動
宮下病院	積極的な医療介入を希望せず看取りを経験した家族の思い
南会津病院	不眠傾向にある統合失調症患者へのアロマオイルによる睡眠導入効果 化学療法に携わる看護師が抱える不安の実態

共通目標指標

資格取得者支援者数



目標 2	職員の意識改革	目標値達成状況		取組状況	
		【 5 】	目標値を上回った	【 4 】	積極的に行われている
<div>〔 職員提案の実施 〕 職員のモチベーションの向上を図るため、職員提案を実施し、問題点を把握し改善を行うことで、働きがいを感じる良好な職場環境づくりに努める。</div>		平成 25 年度の取組状況			
		1 職員提案について			
		病院名	内容		
		本局	職場で実践している事務改善の取組等について、朝礼時に職員が持ち回りで発表を行い、職員間の情報の共有を図った。（提案件数 12 件）		
		矢吹病院	提出強化月間の設定、表彰制度の周知等を実施し、提案を募集した。（提案件数 3 件）		
		宮下病院	働きやすい職場環境づくりや業務の効率化を図るため、職員自らが考え実践し、評価を行う職場改善活動に取り組んだ。また、優れた活動に対して表彰することで、仕事への意欲の向上や職場における士気の高揚につなげた。（提案件数 10 件）		
		南会津病院	毎年 2 月を「職員提案月間」と定め、院内での積極的な応募を促した。（提案件数 17 件）		
		共通目標指標			
		職員提案件数			
		<div><div>H21実績 1 0 5 件</div><div>H22実績 1 1 5 件</div><div>H23実績 9 3 件</div><div>H24実績 5 0 件</div><div>H25目標 4 0 件以上</div><div>H25実績 4 2 件</div></div>			

目標１：人材の育成と確保（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価										
1	共通取組	各分野のスペシャリストの育成	病院内の組織の活性化と職員のモチベーションの向上を図るため、業務推進に当たってのリーダーを育成するとともに、職員の資質向上を図ることを目的に、医療スタッフの専門的で高度な知識や技能の習得を計画的に進める。	資格取得におけるリーダーシップの発揮と新たな活動の展開を図るため支援を行っていく。また、研修などでの自己研鑽を通じて、実践・実行を伴ったさらなる技術発展を目指していく。〔再掲 P28〕	5 (4)										
2		人材育成のための各種研修会への参加や院内教育の充実	職員の資質向上と組織全体の活性化のため、各種研修会や学会等への参加機会の拡充を図るとともに、病院内における職員教育・研修計画に基づき各種研修会等を定期的に開催する。	<table><tr><th colspan="2">各病院の実施状況</th></tr><tr><th>病院名</th><th>主な研修内容</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>SST の取組についての講演会（8/30） 精神科看護の原点に関する講演会（10/9） 急性期医療、小規模医療観察法、在院日数の短縮等、先進的医療の取組についての講演会（11/7）</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>医療安全研修会・医療事故（2/7） 医療安全研修会・医薬品の安全使用（3/12） 院内感染対策研修会・隔離予防策と手洗い（7/4） 院内感染対策研修会・インフルエンザの基礎とワクチン（11/15） インシデントから学ぶ医療安全研修会（10/26）</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>グリッターバク手洗い（5/21～5/27） 医療安全・BLS（6/24） 感染対策関連（7/2、7/9） 災害発生時の対応（9/10） 個人情報保護・情報セキュリティ（9/24） 接遇（10/1） コンプライアンス研修（11/13） など</td></tr></table>	各病院の実施状況		病院名	主な研修内容	矢吹病院	SST の取組についての講演会（8/30） 精神科看護の原点に関する講演会（10/9） 急性期医療、小規模医療観察法、在院日数の短縮等、先進的医療の取組についての講演会（11/7）	宮下病院	医療安全研修会・医療事故（2/7） 医療安全研修会・医薬品の安全使用（3/12） 院内感染対策研修会・隔離予防策と手洗い（7/4） 院内感染対策研修会・インフルエンザの基礎とワクチン（11/15） インシデントから学ぶ医療安全研修会（10/26）	南会津病院	グリッターバク手洗い（5/21～5/27） 医療安全・BLS（6/24） 感染対策関連（7/2、7/9） 災害発生時の対応（9/10） 個人情報保護・情報セキュリティ（9/24） 接遇（10/1） コンプライアンス研修（11/13） など	4 (4)
各病院の実施状況															
病院名	主な研修内容														
矢吹病院	SST の取組についての講演会（8/30） 精神科看護の原点に関する講演会（10/9） 急性期医療、小規模医療観察法、在院日数の短縮等、先進的医療の取組についての講演会（11/7）														
宮下病院	医療安全研修会・医療事故（2/7） 医療安全研修会・医薬品の安全使用（3/12） 院内感染対策研修会・隔離予防策と手洗い（7/4） 院内感染対策研修会・インフルエンザの基礎とワクチン（11/15） インシデントから学ぶ医療安全研修会（10/26）														
南会津病院	グリッターバク手洗い（5/21～5/27） 医療安全・BLS（6/24） 感染対策関連（7/2、7/9） 災害発生時の対応（9/10） 個人情報保護・情報セキュリティ（9/24） 接遇（10/1） コンプライアンス研修（11/13） など														
3	矢吹病院	県立医大看護学部企画の「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の積極的参加	職員の資質向上に取り組む環境づくりを進めるため、地域ケアに必要な知識・技術の習得や事例検討、実践によって、長期在院精神疾患患者に対する看護のレベルアップを目指す「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」への参加を促進する。	平成 25 年度は「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」が実施されなかったものの、同学部で主催する研修会等に 14 人が参加した。	4 (4)										
4	病院局	資格取得支援	専門的な知識と技能を持った職員の育成を図るため、全職種で資格取得等のスキルアップの支援体制を確立する。	認定看護師を 4 名養成したほか、日本看護協会看護研修学校において研修中の者が 2 名となっている。	5 (3)										
5		民間実務経験者の採用	これまで培った豊富な経験や専門知識を活用しながら、県立病院の経営改善を図るため、病院経営の管理・監督、企画立案、医療事務等の能力を備えた民間実務経験者を採用する。	民間実務経験者の採用には至らなかった。	1 (1)										

目標２：職員の意識改革（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価																																																			
8	共通取組	職員提案制度の実施	職員の病院経営への参加意識の向上を図るため、患者サービスの向上や業務の効率化、経費の削減・収益の向上に向けた職員提案制度を充実する。	<p>働きやすい職場環境づくりや業務の効率化を図るため、職員自らが考え実践し、評価を行う職場改善活動に取り組んだ。また、優れた活動に対して表彰することで、仕事への意欲の向上や職場における士気の高揚につなげた。（宮下病院）</p> <table><tr><th>区分</th><th>件数</th><th>内容</th></tr><tr><td>最優秀賞</td><td>1件</td><td>病棟内５Ｓ活動（看護部病棟チーム）</td></tr><tr><td>優秀賞</td><td>5件</td><td>風通しの良い職場づくり(看護部外来チーム)　ほか</td></tr><tr><td>努力賞</td><td>4件</td><td>放射線内の事務取扱の再検討（放射線チーム）　ほか</td></tr></table> <p>ワンステップ運動を実施した。（本局） ワンステップ運動とは、日常業務の中で、できて当然だが、なかなかできそうで、できていない基本について、職員全員が毎日、持ち回りで改善策等の発表を行うことにより、見ているだけ、考えているだけの排除を行い、一歩踏み出して一人ひとりの県立病院基本理念の実践につなげていく活動。</p> <table><tr><th>月</th><th>テーマ</th><th>内容</th></tr><tr><td>4月</td><td>あいさつからはじめよう！</td><td>あいさつをして、信頼関係を築こう。</td></tr><tr><td>5月</td><td>段取り力を高めよう！</td><td>事前準備を十分にすることで、時間を有効に使えるだけでなく、心に余裕が生まれ、予期せぬトラブルにも落ち着いて対処できます。段取りをしてから仕事に取りかかるように心がけよう。</td></tr><tr><td>6月</td><td>接遇に磨きをかけよう！</td><td>相手の立場に立った態度や言葉づかいに心がけるなど、思いやりの気持ちを持って対応しよう。</td></tr><tr><td>7月</td><td>ほう・れん・そうを日常会話に！</td><td>報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常会話にしよう。</td></tr><tr><td>8月</td><td>心と体のリフレッシュで仕事の効率UPを！</td><td>日頃の疲れが出てくる時期です。計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さを乗り切ろう。</td></tr><tr><td>9月</td><td>事務ミスの防止に取り組もう！</td><td>勘違いや思いこみになどによる人為的ミスを防ぐ知恵を職員全員で共有し、事務ミスの撲滅に努めよう。</td></tr><tr><td>10月</td><td>スキルアップで業務効率を高めよう！</td><td>単に仕事をこなすのではなく、仕事を活用して幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。</td></tr><tr><td>11月</td><td>健康管理に気を付けよう！</td><td>寒くなっていく季節に備えて、健康管理を徹底しよう。</td></tr><tr><td>12月</td><td>整理整頓に心がけよう！</td><td>年末に向けて、身の回りの整理整頓を行い、気持ちよく新年を迎えられるようにしよう。</td></tr><tr><td>1月</td><td>目標を持って仕事に取り組もう！</td><td>「一年の計は元旦にあり」。目標を持って、前向きに仕事に取り組もう。</td></tr><tr><td>2月</td><td>目配り、気配り、心配りを大切に！</td><td>目配り・気配り・心配りを常に意識し、相手の立場に立って考え、行動しよう。</td></tr><tr><td>3月</td><td>今年度を振り返ろう！</td><td>年今年度中にやっておくべきことをいったん整理し計画的に取り組もう。また、新年度に向けて早めの準備をはじめよう。</td></tr></table>	区分	件数	内容	最優秀賞	1件	病棟内５Ｓ活動（看護部病棟チーム）	優秀賞	5件	風通しの良い職場づくり(看護部外来チーム)　ほか	努力賞	4件	放射線内の事務取扱の再検討（放射線チーム）　ほか	月	テーマ	内容	4月	あいさつからはじめよう！	あいさつをして、信頼関係を築こう。	5月	段取り力を高めよう！	事前準備を十分にすることで、時間を有効に使えるだけでなく、心に余裕が生まれ、予期せぬトラブルにも落ち着いて対処できます。段取りをしてから仕事に取りかかるように心がけよう。	6月	接遇に磨きをかけよう！	相手の立場に立った態度や言葉づかいに心がけるなど、思いやりの気持ちを持って対応しよう。	7月	ほう・れん・そうを日常会話に！	報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常会話にしよう。	8月	心と体のリフレッシュで仕事の効率UPを！	日頃の疲れが出てくる時期です。計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さを乗り切ろう。	9月	事務ミスの防止に取り組もう！	勘違いや思いこみになどによる人為的ミスを防ぐ知恵を職員全員で共有し、事務ミスの撲滅に努めよう。	10月	スキルアップで業務効率を高めよう！	単に仕事をこなすのではなく、仕事を活用して幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。	11月	健康管理に気を付けよう！	寒くなっていく季節に備えて、健康管理を徹底しよう。	12月	整理整頓に心がけよう！	年末に向けて、身の回りの整理整頓を行い、気持ちよく新年を迎えられるようにしよう。	1月	目標を持って仕事に取り組もう！	「一年の計は元旦にあり」。目標を持って、前向きに仕事に取り組もう。	2月	目配り、気配り、心配りを大切に！	目配り・気配り・心配りを常に意識し、相手の立場に立って考え、行動しよう。	3月	今年度を振り返ろう！	年今年度中にやっておくべきことをいったん整理し計画的に取り組もう。また、新年度に向けて早めの準備をはじめよう。	4 (3)
区分	件数	内容																																																						
最優秀賞	1件	病棟内５Ｓ活動（看護部病棟チーム）																																																						
優秀賞	5件	風通しの良い職場づくり(看護部外来チーム)　ほか																																																						
努力賞	4件	放射線内の事務取扱の再検討（放射線チーム）　ほか																																																						
月	テーマ	内容																																																						
4月	あいさつからはじめよう！	あいさつをして、信頼関係を築こう。																																																						
5月	段取り力を高めよう！	事前準備を十分にすることで、時間を有効に使えるだけでなく、心に余裕が生まれ、予期せぬトラブルにも落ち着いて対処できます。段取りをしてから仕事に取りかかるように心がけよう。																																																						
6月	接遇に磨きをかけよう！	相手の立場に立った態度や言葉づかいに心がけるなど、思いやりの気持ちを持って対応しよう。																																																						
7月	ほう・れん・そうを日常会話に！	報告、連絡、相談（ほうれんそう）を日常会話にしよう。																																																						
8月	心と体のリフレッシュで仕事の効率UPを！	日頃の疲れが出てくる時期です。計画的に夏季休暇を取得し、夏の暑さを乗り切ろう。																																																						
9月	事務ミスの防止に取り組もう！	勘違いや思いこみになどによる人為的ミスを防ぐ知恵を職員全員で共有し、事務ミスの撲滅に努めよう。																																																						
10月	スキルアップで業務効率を高めよう！	単に仕事をこなすのではなく、仕事を活用して幅広い知識を習得しながら、プロフェッショナルを目指そう。																																																						
11月	健康管理に気を付けよう！	寒くなっていく季節に備えて、健康管理を徹底しよう。																																																						
12月	整理整頓に心がけよう！	年末に向けて、身の回りの整理整頓を行い、気持ちよく新年を迎えられるようにしよう。																																																						
1月	目標を持って仕事に取り組もう！	「一年の計は元旦にあり」。目標を持って、前向きに仕事に取り組もう。																																																						
2月	目配り、気配り、心配りを大切に！	目配り・気配り・心配りを常に意識し、相手の立場に立って考え、行動しよう。																																																						
3月	今年度を振り返ろう！	年今年度中にやっておくべきことをいったん整理し計画的に取り組もう。また、新年度に向けて早めの準備をはじめよう。																																																						

基本方針５：地域との連携・共生（地域連携の視点）

【改革プラン方針】 地域のニーズに対応した質の高い医療の提供や収益確保のため、各地域の医療機関や介護福祉施設等との役割分担を図りながら、連携を一層強化していく。 また、地域に親しまれる病院を目指して、地元市町村をはじめとする保健・医療・福祉等の行政機関や各種企業・団体との連携を強化し、地域住民との交流や連携事業を積極的に行う。		平成 25 年度取組状況及び自己評価			
目標 1	地域医療機関等との連携	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 4 】	積極的に行われている
〔紹介率の向上〕 紹介率を向上させながら患者数の増加を図るため、地域の医療機関等との機能分担や訪問を通じての顔の見える連携を積極的に進める。 〔社会復帰に向けた体制整備〕 患者さんを地域全体でサポートしていくため、医療機関や保健・介護福祉施設、行政機関との連携を強化し、患者さんが適切な治療を受け早期の社会復帰を果たせるような体制整備を図る。 〔医師派遣等による支援機能発揮〕 へき地医療拠点病院として、国保診療所や介護保健施設への医師派遣による診療応援を実施するなど、地域の病院等との相互協力・支援の取組みを充実する。		1 地域医療連携について 地域の医療・保健・福祉・介護関係者との連携を強化し情報共有に努めた。			
		病院名	実施状況		
		矢吹病院	他院からの受入要請に積極的に対応した。		
		宮下病院	へき地診療所への医師派遣や地域の医療・保健・福祉関係者との定期的な情報交換、介護老人福祉施設への定期訪問等を行った。		
		南会津病院	医療福祉関係者との懇談会等の開催により地域連携が定着してきており、年々圏内の医療機関からの紹介が増加している。		
		【紹介率・病床利用率の状況】			
			矢吹病院	宮下病院	南会津病院
		H25 紹介率	18.6%	8.0%	14.2%
		H24 紹介率	17.4%	8.8%	13.6%
		H25 病床利用率	65.3%	36.0%	66.1%
H24 病床利用率	67.0%	38.9%	60.3%		
		2 医師派遣等による支援機能について 常勤医師の確保・定着を図るとともに、地域の国保診療所等への医師派遣を行った。			
		病院名	実施状況		
		宮下病院	柳津町国民健康保険診療所（毎週金曜日に 1 人派遣（43 回 / 年）） 金山町国民健康保険診療所（毎週水曜日に 1 人派遣（47 回 / 年）） 特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年））		
		南会津病院	只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 23 回 / 年）		

〔地域生活移行に向けた体制整備〕
患者さんの地域生活移行に向けた体制の充実を図るため、ボランティアによる地域住民との交流やグループホームなどとの連携を強化する。

３ 地域生活移行に向けた体制整備について 矢吹病院の取組み

心理社会療法部	平成 23 年度から心理社会療法部として新たに心理教育部・S S T 療法部を組み入れた組織の変更を行い、２本柱としてきた。それぞれが研修会・勉強会などを実施しスタッフ各自の知識のレベルアップ・スキルの向上を図りながら、集団 S S T・個人 S S T・集団心理教育・個人心理教育・家族心理教育を実施した。 心理教育・S S T 療法それぞれが学習会等とともに活発に活動した。			
レクレーション療法部	入院患者全員対象の年間レク（映画鑑賞、秋祭り等）や病棟レク（花見、社会体験等）を病棟ごとに実施した。			
作業療法部	実施状況			
	H 25	H 24	H 23	H 22
	12,765 人	14,131 人	17,302 人	12,922 人
デイケア医療部	登録者数 48 人（平成 26 年 3 月末現在）			
	H 25	H 24	H 23	H 22
	3,713 人	4,319 人	3,653 人	3,846 人
訪問看護室	登録者数 76 人（平成 26 年 3 月末現在）			
	H 25	H 24	H 23	H 22
	1,840 人	1,860 人	1,728 人	1,688 人

共通目標指標

紹介率



H 21 実績
1 6 . 7 %

H 22 実績
1 7 . 2 %

H 23 実績
1 7 . 2 %

H 24 実績
2 1 . 8 %

H 25 目標
1 6 % 以上

H 25 実績
1 3 . 8 %

病床利用率（一般）



H 21 年実績
4 7 . 6 %

H 22 実績
5 2 . 2 %

H 23 実績
6 5 . 6 %

H 24 実績
6 2 . 9 %

H 25 目標
7 3 % 以上

H 25 実績
5 8 . 0 %

目標 2	県民への情報提供	目標値達成状況評価		取組状況評価	
		【 - 】	目標値の設定なし	【 4 】	積極的に行われている
<p>[効果的な情報発信]</p> <p>地域に親しまれる病院となるため、院外広報誌の発行等を通じて医療に関する情報や院内活動などの情報発信に取り組む。</p> <p>[出前講座等の実施]</p> <p>地域に信頼される病院を目指し、行政や団体機関等における講演会等への講師派遣、各県立病院が主催する研修会や出前講座などのイベントなど、職員が積極的に地域に出向いた活動を行う。</p>		《平成 25 年度の取組状況》			
		1 情報発信について			
		ホームページの定期的な更新や院内広報誌の発行、地域住民との交流イベント等を通じて情報発信を積極的に行った。			
		病院名	実施状況		
		矢吹病院	診療医師の変更、入札情報、院内イベント等を掲載した。今後も病院の様子を伝える内容を定期的に更新していく。（ホームページ全体へのアクセス件数 36,341 件/年）		
		宮下病院	三島町・金山町・柳津町の広報誌へ病院情報を掲載した。（掲載回数：42 回）		
		南会津病院	院外広報誌「かけはし」に健康情報や人間ドックの案内、医師紹介などを掲載し、郡内全戸に配布したほか、隣接する昭和村では回覧を行った。（発行回数: 3 回、うち 1 回は院内配布）		
		病院局	「県立病院ニュース」発行（年 1 回発行）		
		2 出前講座等の実施について			
		(1) 講演会の開催			
矢吹病院では、地域に開かれた病院づくりを目指すため、矢吹町教育委員会との共催で、矢吹町立小中学校職員を対象に講演会を開催した。					
1 日時	平成 25 年 8 月 20 日				
2 内容	子どもの問題行動を解決する 3 ステップ				
(2) 地域医療セミナーの開催について					
南会津病院では、地元医師会、保健・介護関係者と「南会津保健・医療・介護懇談会」を開催し、地域の課題を浮き彫りにするとともに、顔の見える関係づくりを行った。					
1 日時	平成 25 年 11 月 23 日(参加者 38 人)				
2 内容	当院各部署の取組状況説明、意見交換				
(3) 出前講座の実施について					
地域住民の健康づくりの一助として、地域からの依頼により病院職員が各地に出向き医療講演等を行った。					
病院名	実施状況				
矢吹病院	矢吹町内の住民を対象とした「こころの出前講座」を実施した。（ 2 回開催）				
宮下病院	柳津町、三島町、金山町、昭和町の住民を対象とした出前講座を実施した。（ 21 回）				
南会津病院	郡内の保育施設等で医療相談会を実施した。 地域からの要請に基づき医療講演等に職員を派遣した。（ 13 回）				

目標 1：地域医療機関等との連携（各病院の取組状況）

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価
1	共通取組	地域の医療機関、介護施設、訪問看護ステーション等との連携強化	地域の医療機関や保健・介護福祉施設と連携を強化し、新規患者数の増加を図るとともに、退院支援体制を構築する。	地域の医療・保健・福祉・介護関係者との連携を強化し情報共有に努めた。〔再掲 P 33〕	4 (4)
2	矢吹病院	地域生活移行へ向けた支援体制の強化	地域医療担当部門を設置し、地域との連携や患者の地域生活移行への支援体制の強化を図る。	地域移行を目標とする患者、家族への面会、地域事業者との連絡、相談を実施した。 退院促進を実施してきた結果、昭和年代入院患者 7 名、平成 10 年までの入院患者 3 名、平成 20 年までの入院患者 8 名について、退院につなげることができた。	5 (5)
3		患者のグループホームへの円滑な移行	「入院医療中心から地域生活中心へ」という精神保健医療福祉改革ビジョンの基本的な考え方を踏まえ、長期の社会的入院患者の退院、社会復帰を促進するため、関係機関との連携を強化しながら、患者のグループホームへの円滑な移行支援を行う。 こうした取組みにより平均在院日数の短縮を図る。	グループホームへの見学、体験の同行支援、入所に向けてのケース会議を実施した。	5 (5)
4		県立医大看護学部との共同研究実施による患者の地域生活移行に向けた活動の強化	県立医科大学看護学部との共同研究では、入院患者を三群に分類し、社会復帰支援に向けたアプローチを行っているが、今後、リハビリテーション組織の在り方や会議の定期開催数などの見直しを図る。	中止	- (-)
5	宮下病院 南会津病院	国保診療所への診療応援	常勤医師の確保・定着を図り、地域の国保診療所へ医師を派遣するなど、へき地医療拠点病院としての役割を果たす。	宮下病院〔再掲 P 33〕 ・柳津町国民健康保険診療所（毎週金曜日に 1 人派遣（43 回 / 年）） ・金山町国民健康保険診療所（毎週水曜日に 1 人派遣（47 回 / 年）） ・特別養護老人ホーム桐寿苑（毎週火曜日に 1 人派遣（50 回 / 年）） 南会津病院〔再掲 P 33〕 ・只見町国民健康保険朝日診療所（診療応援 23 回 / 年）	5 (5)

目標２：県民への情報提供（各病院の取組状況）

取組評価欄の（ ）内は前年度自己評価

番号	取組機関	アクションプラン	取組内容	進捗状況	取組評価									
6	共通取組	ホームページの充実と院外広報誌の発行	医療に関する情報や院内活動等を地域に幅広く伝えるため、ホームページの充実や院外広報誌の発行を通じて、情報発信機能の強化を図る。	ホームページの定期的な更新や院内広報誌の発行、地域住民との交流イベント等を通じて情報発信を積極的に行った。〔再掲 P 35〕	3 (3)									
7		イベントの開催による地域住民との交流促進	健康講座や音楽コンサート等の開催、地元市町村等が主催する医療講演会等への職員派遣などにより、病院の持つ専門的な知識や最新情報を提供し、地域の方々の医療に関する理解促進と普及啓発を図る。	<table><tr><th colspan="2">各病院の取組状況</th></tr><tr><th>病院名</th><th>取組状況</th></tr><tr><td>矢吹病院</td><td>地域と考えるメンタルヘルスをテーマに「第 1 回矢吹病院まつり」を開催し、こころの健康相談、アロマテラピー、バザー等を実施した。(開催日：10/27) 矢吹町主催で開催される産業祭に参加し、当院の P R を行った。(開催日：9 /29)</td></tr><tr><td>宮下病院</td><td>看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。(開催日：5/10)</td></tr><tr><td>南会津病院</td><td>ボーカル、ギターによる院内クリスマスコンサートを開催した。(開催日：12/7)</td></tr></table>	各病院の取組状況		病院名	取組状況	矢吹病院	地域と考えるメンタルヘルスをテーマに「第 1 回矢吹病院まつり」を開催し、こころの健康相談、アロマテラピー、バザー等を実施した。(開催日：10/27) 矢吹町主催で開催される産業祭に参加し、当院の P R を行った。(開催日：9 /29)	宮下病院	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。(開催日：5/10)	南会津病院	ボーカル、ギターによる院内クリスマスコンサートを開催した。(開催日：12/7)
各病院の取組状況														
病院名	取組状況													
矢吹病院	地域と考えるメンタルヘルスをテーマに「第 1 回矢吹病院まつり」を開催し、こころの健康相談、アロマテラピー、バザー等を実施した。(開催日：10/27) 矢吹町主催で開催される産業祭に参加し、当院の P R を行った。(開催日：9 /29)													
宮下病院	看護の日に院内イベントを開催し、記念グッズの配付や血管年齢測定、血圧・骨密度測定を実施した。(開催日：5/10)													
南会津病院	ボーカル、ギターによる院内クリスマスコンサートを開催した。(開催日：12/7)													

平成 25 年度県立病院事業会計決算の概要

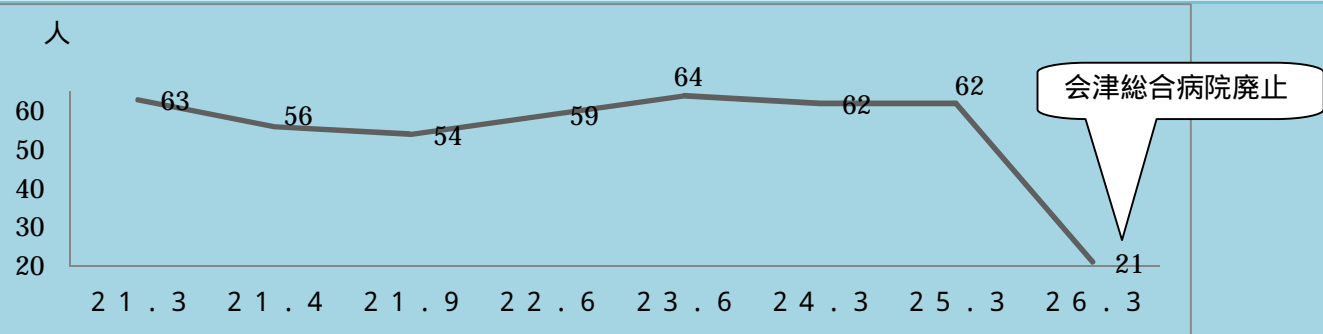
改革プランにおける経営健全化に向けた収支目標

- 目標 1：単年度赤字の漸次解消を図り、平成 25 年度までに収支均衡を目指す。 未達
目標 2：平成 23 年度までに不良債務の解消を目指す。 平成 23 年度達成

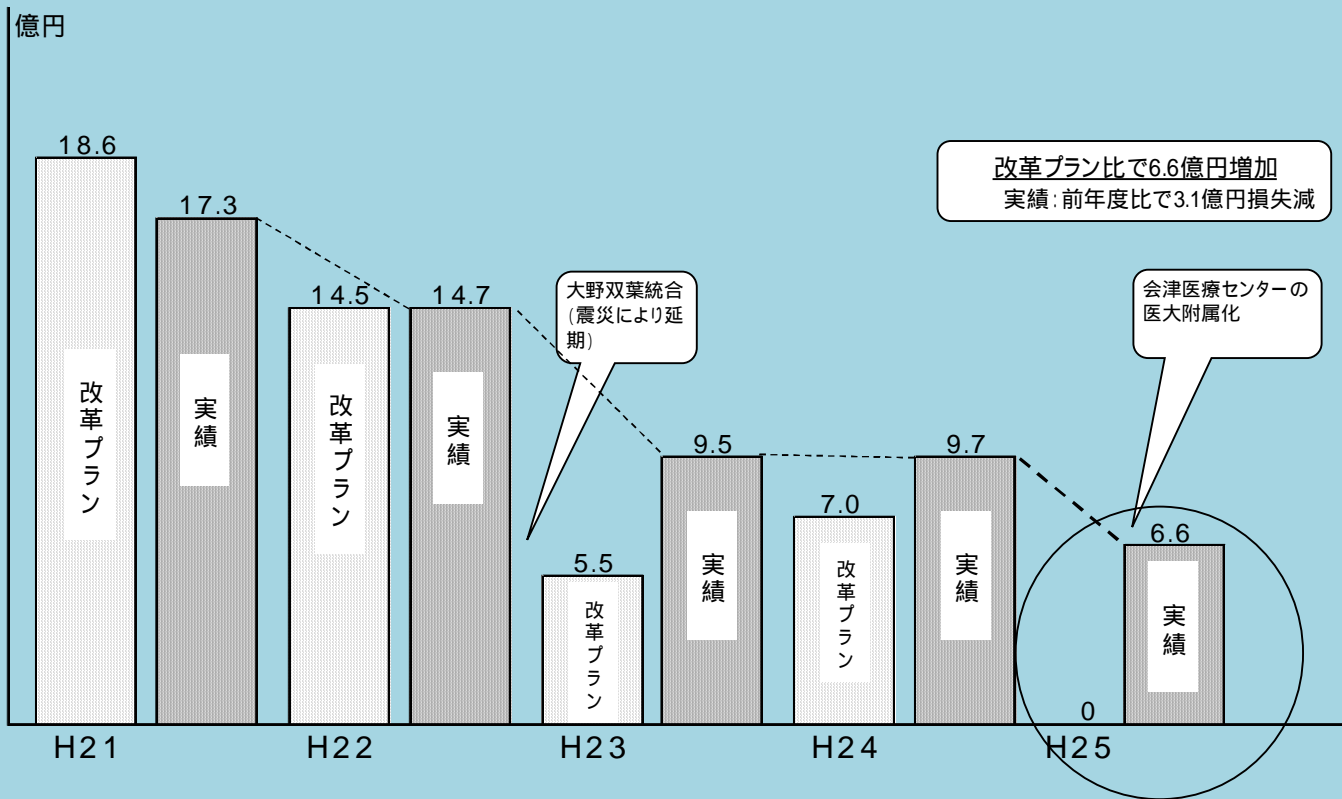
決算の概要

平成 25 年度の純損益は、6.6 億円の損失（前年比 3.1 億円の損失減）となり、これまでの累積欠損金は、282.2 億円となっている。
会津総合病院の閉院に伴い発生する不良債務を解消するため、特例的な一般会計からの繰入である「経営改革支援経費」を 2.4 億円繰り入れていただいた。

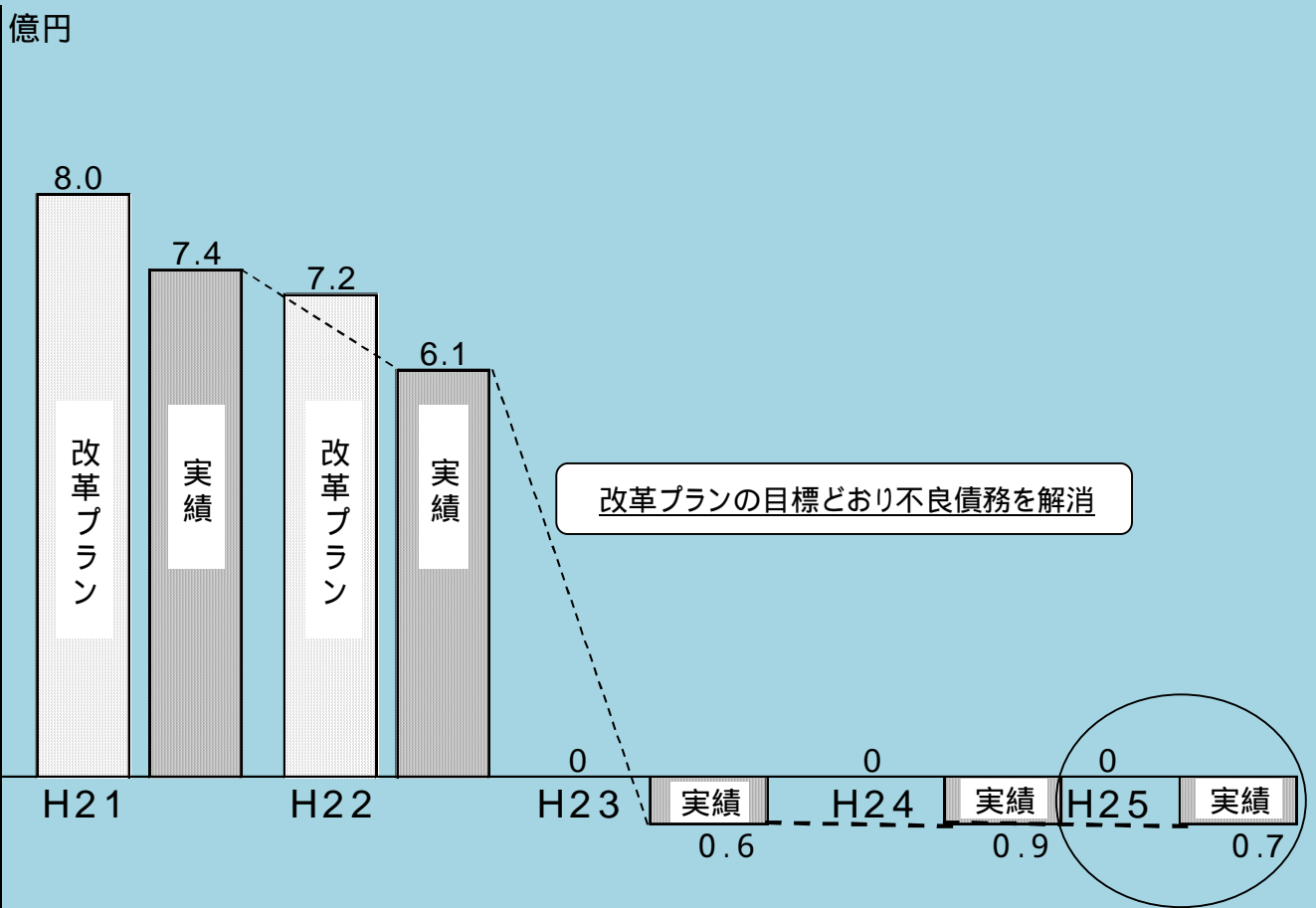
医師の状況



純損失



不良債務



収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 年度の取組状況及び自己評価				
県立病院事業の収支計画							目標値達成状況自己評価			取組状況自己評価	
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた	【 4 】	積極的に行われている
							職員給与比率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 3 】	取り組んでいる
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた	【 4 】	極めて積極的に行われている
(単位 百万円)							<div>平成 25 年度の経営状況</div> <div>総収益 6,780 百万円に対し、総費用 7,435 百万円で、差引 656 百万円の純損失となり、対プランで 656 百万円の損失増、対前年度で 317 百万円の損失減となった。これにより累積欠損金は 28,220 百万円となった。</div> <div>医業収益は、会津総合病院及び喜多方病院の廃止に伴う収益の減などにより、対前年度で 4,511 百万円の減となった。</div> <div>医業外収益は、一般会計繰入（経営改革支援経費）の減により、対前年度で 613 百万円の減となった。</div> <div>医業費用は、会津総合病院及び喜多方病院の廃止に伴う費用の減などにより、対前年度で 5,854 百万円の減となった。</div> <div>医業外費用は、支払利息の増により、対前年度で 123 百万円の増となった。</div> <div>平成 26 年度に向けた取組</div> <div>県立病院として求められる政策医療を確実に実施するとともに、医療の質の向上や患者サービスの充実に努め、地域に信頼される病院づくりを目指していく。</div> <div>本プランの後継計画である第二次福島県県立病院改革プラン（平成 26 年 3 月策定）の着実な実施に努めながら、健全な病院運営に取り組んでいく。</div> <div>双葉地域の復旧・復興に資するため、双葉郡町村会からの要望を踏まえながら、県立の仮設診療所の整備に向けた準備を進めていく。</div>				
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 計画	H25 実績					
総収益	11,734	11,630	11,546	11,749	5,110	6,780					
医業収益	7,578	7,556	6,970	7,824	3,470	3,313					
うち入院収益	4,038	4,371	3,996	4,226	2,177	1,831					
うち外来収益	2,063	2,084	1,951	2,089	829	1,011					
うち一般会計繰入	1,283	898	850	1,356	402	397					
医業外収益	4,134	4,039	4,570	3,896	1,640	3,283					
うち一般会計繰入	4,102	3,997	3,915	3,385	1,626	2,820					
特別利益	23	35	6	29	0	184					
総費用	13,468	13,098	12,493	12,722	5,110	7,435					
医業費用	12,956	12,629	12,035	12,504	4,850	6,649					
うち給与費	8,345	7,746	7,350	7,508	3,202	3,979					
うち材料費	1,499	1,607	1,612	1,858	592	744					
うち経費	1,689	1,916	1,885	1,996	608	1,142					
うち減価償却費	1,253	1,189	1,013	993	314	668					
医業外費用	457	445	426	187	260	309					
特別損失	55	24	32	31	0	477					
純損益	▲1,734	▲1,468	▲946	▲973	0	656					
不良債務	743	610	▲62	▲97	0	77					
経常収支比率	87.3%	88.7%	92.6%	94.1%	100.0%	98.4%					
給与費対医業収益比率	110.1%	102.5%	105.5%	88.5%	92.3%	104.2%					
うち一般病院	106.9%	98.4%	92.1%	82.8%	82.6%	93.6%					
給与費対経常収益比率	71.3%	66.8%	63.7%	62.1%	62.7%	56.5%					
病床利用率（一般）	47.6%	52.2%	68.2%	62.9%	73%以上	58.0%					
(注) H23 から H25 実績欄の経常収支比率、給与費対医業収益比率、給与費対経常収益比率、病床利用率（一般）は大野病院を除く。											
(注) 表示単位未満を四捨五入しているため表中の計算が合わないことがある。											

矢吹病院収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 年度自己評価		
矢吹病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を上回った
							職員給与比率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							<p>平成 25 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）1,149 百万円に対し、総費用 1,739 百万円で、差引 590 百万円の純損失となり、対プランで 115 百万円の損失増、対前年度で 4 百万円の損失減となった。</p> <p>入院収益は、地域生活移行の推進を図ったことにより患者数が減少（ 1,297 人）し、対前年度で 6 百万円の減となった。</p> <p>外来収益は、精神科デイケアや訪問看護を中心に患者数が減少（ 477 人）したものの、診療単価が増加（ +740 円）したことにより、対前年度で 5 百万円の増となった。</p> <p>医業費用は、退職手当の増に伴い給与費が増加するなど、対前年度で 53 百万円の増となった。</p> <p>平成 26 年度に向けた取組</p> <p>平均在院日数の短縮を促進し、急性期病棟への転換を目指していく。</p> <p>精神科救急医療システム事業の輪番への取組を継続するとともに、外来での責任番の配置による診療体制の充実に努め、受診機会の拡大を図っていく。</p> <p>引き続き、精神病院地域移行マッチング事業を支援していく。</p> <p>医療観察法病棟の開設に向け、引き続き矢吹町と調整を進めるとともに、地域の理解が得られるよう広報活動等の充実に取り組む。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 計画	H25 実績			
総収益	(1,344)	(1,074)	(1,223)	(1,094)	(1,321)	(1,149)			
	1,828	1,709	1,742	1,688	1,796	1,739			
医業収益	1,061	951	1,096	984	1,204	1,038			
うち入院収益	715	703	829	692	1,031	687			
うち外来収益	163	156	162	167	166	173			
うち一般会計繰入	174	85	95	115	0	168			
医業外収益	759	756	646	704	592	700			
うち一般会計繰入	756	754	642	701	590	697			
総費用	1,828	1,709	1,742	1,688	1,796	1,739			
医業費用	1,804	1,686	1,720	1,678	1,786	1,731			
うち給与費	1,378	1,250	1,266	1,259	1,331	1,316			
うち材料費	170	163	183	169	231	174			
うち経費	140	138	149	138	116	145			
うち減価償却費	95	117	91	92	99	76			
医業外費用	23	22	21	7	10	6			
純損益	(▲484)	(▲635)	(▲519)	(▲594)	(▲475)	(▲590)			
	0	0	0	0	0				
経常収支比率	99.6%	99.9%	100.1%	100.1%	100.0%	100.0%			
給与費対医業収益比率	129.9%	131.4%	115.5%	128.0%	110.5%	126.8%			
給与費対経常収益比率	75.7%	73.3%	72.7%	74.6%	74.1%	75.7%			
病床利用率	70.6%	69.2%	79.5%	67.0%	90.5%	65.3%			
入院 1 日当たり患者数	145.4 人	142.6 人	163.7 人	138.0 人	154.8 人	134.4 人			
外来 1 日当たり患者数	61.2 人	56.8 人	59.2 人	62.4 人	66.3 人	60.7 人			
(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額									
(注) 表示単位未満を四捨五入しているため表中の計算が合わないことがある。									

会津総合病院収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 年度自己評価		
会津総合病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 - 】	
							職員給与比率	【 - 】	
							病床利用率	【 - 】	
							平成 25 年度の状況 県立喜多方病院と県立会津総合病院を統合し、福島県立医科大学の附属病院である会津医療センターを整備した。 県立会津総合病院は平成 25 年 5 月 12 日に廃止。		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 計画	H25 実績			
総収益	3,734	3,268	3,335	4,551	-	569			
医業収益	2,595	2,729	2,850	4,155	-	308			
うち入院収益	1,509	1,675	1,733	2,487	-	201			
うち外来収益	612	616	739	892	-	99			
うち一般会計繰入	406	365	311	711	-	3			
医業外収益	1,130	535	484	382	-	259			
うち一般会計繰入	1,112	520	470	363	-	258			
総費用	4,673	4,724	4,937	5,813	-	819			
医業費用	4,632	4,688	4,903	5,797	-	789			
うち給与費	3,029	2,825	2,669	3,033	-	292			
うち材料費	554	650	828	1,185	-	220			
うち経費	620	810	1,016	1,206	-	272			
うち減価償却費	369	343	319	314	-	0			
医業外費用	32	30	27	7	-	0			
純損益	▲939	▲1,457	▲1,602	▲1,262	-	250			
経常収支比率	79.9%	69.2%	67.6%	78.2%	-	71.9%			
給与費対医業収益比率	116.7%	103.5%	93.6%	73.0%	-	94.9%			
給与費対経常収益比率	81.3%	86.6%	80.1%	66.8%	-	51.6%			
病床利用率	50.1%	54.7%	68.1%	75.2%	-	52.8%			
入院 1 日当たり患者数	132.4	125.2 人	97.0 人	120.8 人	-	92.7 人			
外来 1 日当たり患者数	369.9	344.8 人	377.0 人	405.3 人	-	359.6 人			
(注) 表示単位未満を四捨五入しているため表中の計算が合わないことがある。									

宮下病院収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 度自己評価		
宮下病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 4 】	目標値を達成できた
							職員給与比率	【 2 】	目標値を下回った
							病床利用率	【 2 】	目標値を下回った
							<p>平成 25 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）348 百万円に対し、総費用 642 百万円で、差引 294 百万円の純損失となり、対プランで 140 百万円の損失増、対前年度で 7 百万円の損失増となった。</p> <p>入院収益は、外科が休診になったことなどにより患者数が減少（ 338 人）し、対前年度で 3 百万円の減となった。</p> <p>外来収益は、外科が休診になったことなどにより患者数が減少（ 1,094 人）し、対前年度で 12 百万円の減となった。</p> <p>医業費用は、退職手当の増に伴い給与費が増加するなど、対前年度で 20 百万円の増となった。</p> <p>平成 26 年度に向けた取組</p> <p>会津若松市等の病院や管内診療所との連携を強化し、紹介患者の獲得に努める。</p> <p>へき地診療所への代診医派遣の継続や介護老人福祉施設との定期的な情報交換等を通じて、新規患者の獲得に努める。</p> <p>医療講演会や出前講座など、職員が地域に出向いて行う活動の積極的な展開により、地域に親しまれ信頼される病院を目指す。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 計画	H25 実績			
総収益	(437) 618	(433) 677	(497) 728	(334) 620	(438) 592	(348) 642			
医業収益	344	388	454	293	408	310			
うち入院収益	179	175	187	119	234	116			
うち外来収益	137	126	123	119	150	107			
うち一般会計繰入	5	64	121	34	0	74			
医業外収益	274	289	274	326	184	329			
うち一般会計繰入	274	289	273	325	184	328			
総費用	619	678	729	621	592	642			
医業費用	613	674	724	617	588	637			
うち給与費	378	444	501	393	344	425			
うち材料費	63	53	55	45	77	36			
うち経費	92	103	95	111	95	116			
うち減価償却費	59	48	49	47	56	42			
医業外費用	4	4	4	3	4	3			
純損益	(▲181) ▲1	(▲245) ▲1	(▲232) ▲1	(▲287) ▲1	(▲154) 0	(294) 0			
経常収支比率	100.2%	99.9%	100.0%	99.8%	100.0%	99.8%			
給与費対医業収益比率	109.9%	114.4%	110.4%	133.9%	84.3%	137.0%			
給与費対経常収益比率	61.1%	65.6%	68.8%	63.5%	58.1%	66.5%			
病床利用率	55.9%	55.5%	64.1%	38.9%	71.9%	36.0%			
入院 1 日当たり患者数	17.9 人	17.7 人	20.5 人	12.5 人	23.0 人	11.5 人			
外来 1 日当たり患者数	79.7 人	75.9 人	73.0 人	65.7 人	84.2 人	61.5 人			
(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額									
(注) 表示単位未満を四捨五入しているため表中の計算が合わないことがある。									

南会津病院収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 年度自己評価		
南会津病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	【 5 】	目標値を上回った
							職員給与比率	【 4 】	目標値を達成できた
							病床利用率	【 3 】	目標値をほぼ達成できた
							<p>平成 25 年度の状況</p> <p>総収益（繰入前）1,885 百万円に対し、総費用 2,183 百万円で、差引 297 百万円の純損失となり、対前年度で 129 百万円の損失増、対前年度で 31 百万円の損失減となった。</p> <p>入院収益は、小児科の新入院患者及び感染性疾患患者の増加、整形外科の外傷患者等の積極的な受入により患者数が増加（+1,640 人）し、対前年度で 49 百万円の増となった。</p> <p>外来収益は、前年度とほぼ横ばいとなった。</p> <p>医業費用は、退職手当の減に伴う給与費の減少などにより、対前年度で 98 百万円の減となった。</p> <p>平成 26 年度に向けた取組</p> <p>当院での手術が可能な患者について、引き続き積極的に入院治療を行うとともに、終末期患者の受け入れも行う。</p> <p>会津医療センターとの連携により、皮膚科及び神経精神科の診療応援を得ながら、地域のニーズに応える体制づくりに努める。</p> <p>今後も、後発医薬品の採用を増やすとともに、不用薬剤の削除を行い、後発医薬品比率を上げていく。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 実績	H25 計画	H25 実績			
総収益	(1,843)	(1,737)	(2,017)	(1,963)	(1,803)	(1,885)			
	2,288	2,195	2,286	2,289	1,971	2,180			
医業収益	1,383	1,443	1,708	1,665	1,502	1,597			
うち入院収益	627	752	914	778	911	827			
うち外来収益	513	556	631	633	514	633			
うち一般会計繰入	212	101	123	215	47	92			
医業外収益	903	748	577	622	469	581			
うち一般会計繰入	898	742	571	602	466	575			
総費用	2,289	2,196	2,288	2,291	1,971	2,183			
医業費用	2,103	2,018	2,123	2,138	1,795	2,041			
うち給与費	1,206	1,101	1,219	1,265	1,048	1,148			
うち材料費	247	275	344	303	284	314			
うち経費	317	311	339	352	288	362			
うち減価償却費	299	297	185	192	158	185			
医業外費用	183	174	165	150	176	139			
純損益	(▲445)	(▲459)	(▲271)	(▲328)	(▲168)	(297)			
	▲1	▲1	▲2	▲2	0	2			
経常収支比率	100.0%	100.0%	99.9%	100.0%	100.0%	99.9%			
給与費対医業収益比率	87.2%	76.3%	71.4%	76.0%	69.8%	71.9%			
給与費対経常収益比率	52.7%	50.3%	53.3%	55.3%	53.2%	52.7%			
病床利用率	50.1%	58.3%	70.7%	60.3%	74.4%	66.1%			
入院 1 日当たり患者数	50.1 人	58.3 人	70.7 人	60.3 人	74.4 人	64.7 人			
外来 1 日当たり患者数	219.6 人	231.7 人	264.2 人	266.1 人	254.1 人	268 人			
(注)() 書きの額は、政策医療に係る経費等を繰り入れる前の額									

大野病院収支計画について

平成 25 年度実績							平成 25 年度自己評価		
大野病院 <div>(単位 百万円)</div>							目標値達成状況自己評価		
							経常収支比率	-	-
							職員給与比率	-	-
							病床利用率	-	-
							<p>平成 25 年度の状況 東京電力福島第一原子力発電所事故により、病院機能が停止している。 総収益 598 百万円に対し、総費用 864 百万円で、差引 265 百万円の純損失となった。</p> <p>平成 26 年度に向けた取組 大野病院と J A 福島厚生連双葉厚生病院との統合は、震災の影響で延期した。 双葉地域の復興に向けた医療課題の解決に向け、当面の医療需要に応じた規模の医療施設の整備を検討する。具体的には、双葉郡町村会からの要望を踏まえながら、県立の仮設診療所の整備に向けた準備を進めていく。</p>		
年度	H21 実績	H22 実績	H23 実績	H24 計画	H25 計画	H25 実績			
総収益	1,703	1,435	851	656	-	598			
医業収益	1,231	1,265	95	56	-	60			
うち入院収益	568	669	0	0	-	0			
うち外来収益	351	355	0	0	-	0			
うち一般会計繰入	281	205	94	56	-	60			
医業外収益	470	166	754	588	-	538			
うち一般会計繰入	467	156	127	129	-	121			
総費用	2,277	2,160	1,149	936	-	864			
医業費用	2,242	2,142	1,125	919	-	859			
うち給与費	1,315	1,193	760	635	-	590			
うち材料費	242	263	0	0	-	0			
うち経費	329	361	69	4	-	3			
うち減価償却費	335	301	293	279	-	265			
医業外費用	13	13	12	6	-	4			
純損益	▲574	▲725	▲298	▲280	-	265			
経常収支比率	75.5%	66.4%	74.7%	69.6%	-	69.2%			
給与費対医業収益比率	106.8%	94.3%	800.0%	1133.8%	-	991.7%			
給与費対経常収益比率	77.3%	83.4%	89.5%	98.5%	-	98.8%			
病床利用率	27.2%	35.9%	-	-	-	-			
入院 1 日当たり患者数	40.9 人	49.6 人	-	-	-	-			
外来 1 日当たり患者数	245.3 人	240.0 人	-	-	-	-			
(注) 表示単位未満を四捨五入しているため表中の計算が合わないことがある。									